



SHIMANE SHINKIN BANK

REPORT 2016

しまね信用金庫の **現況**

REPORT 2016 ◎目次

■ ごあいさつ	2
■ 経営方針	3
■ 第4次しましん中期計画2015	4
■ トピックス2016	5
■ 事業の概要	7
■ 社会的責任と地域貢献活動	9
■ 事業の運営に関する事項	19
■ 主要な事業の内容	23
■ 各種サービスのご案内	27
■ 各種手数料一覧	29
■ 事業の組織	32
■ しましんのあゆみ	37
<hr/>	
■ 財務資料	38
■ 開示項目	61



しまね信用金庫
理事長 石川 茂 夫

ごあいさつ

皆様には、平素よりしまね信用金庫に対し、格別のご愛顧、お引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。

皆様に“しましん”をより一層ご理解いただき、親しみを持っていただけるよう業績の推移、日常の業務活動、コンプライアンス、リスク管理等の内部管理態勢、地域社会との繋がりなどをまとめたディスクロージャー誌「REPORT2016」を作成いたしましたので、当金庫についてご理解を深めていただければ幸いに存じます。

平成27年度の日本経済は、アベノミクスの推進により、円安、株高が持続し、輸出型の大手企業を中心に企業収益が堅調に推移し、外国人観光客の増加効果もあって、全体として緩やかな回復基調を続けました。

しかしながら、地域経済の担い手である中小企業の多くは、円安に伴う原材料価格の高騰や人手不足等に苦しみ、価格転嫁が難しいことから、一進一退の状況にあり、景況感の二極化傾向が強まりました。

そうした中、当金庫におきましては、平成27年4月より「第4次しましん中期計画2015」をスタートさせており、「あなたの隣に、いつも“しましん”」をテーマに掲げ、地域社会の発展に貢献すると共に、地域密着による経営基盤の強化と健全経営に努め、地域から信頼される信用金庫を目指して、営業基盤の拡充、経営体質の向上、組織力の強化に取り組んでいます。

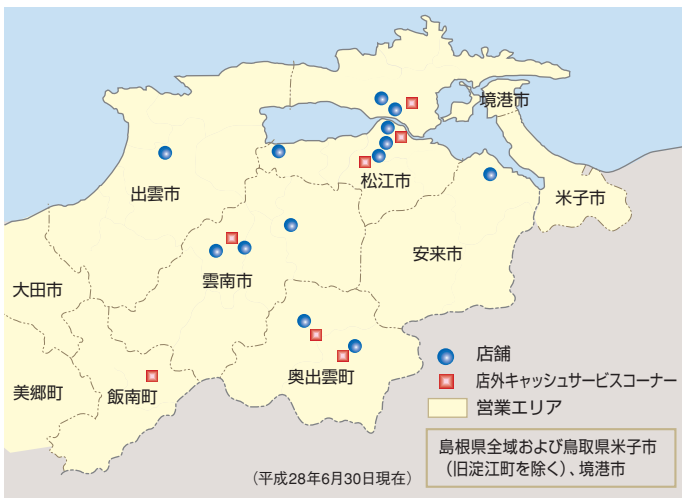
また、これまで以上にお取引先のご支援、情報提供、創業支援などに努め、個々のお取引先を大切にしながら、地域から信頼される金融機関となるよう、役職員一同努力してまいり所存でございます。

今後とも、一層のご支援ご愛顧を賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成28年7月

経営方針

地域社会の発展に
貢献するとともに、
地域密着により
経営基盤の強化、
健全経営に努め、
地域から信頼される
信用金庫をめざします。



プロフィール (平成28年3月末)

- ◎創立／大正13年5月
- ◎本店所在地／松江市御手船場町557-4
- ◎出資金／419百万円
- ◎常勤役員／124人
- ◎店舗数／13店舗
- ◎預金／84,798百万円
- ◎貸出金／50,662百万円

インターネット <http://www.shimane-shinkin.co.jp/>
メールアドレス simasin@mxy.mesh.ne.jp

第4次 しましん中期計画2015〈骨子〉

【計画期間】

平成27年4月1日～平成30年3月31日

【経営方針】

地域社会の発展に貢献するとともに、地域密着により経営基盤の強化、健全経営に努め、地域から信頼される信用金庫をめざします。

【メインテーマ】

あなたの隣に、いつも"しましん"
～お客様のために、お客様と共に歩む信金をめざして～

基本戦略

営業基盤の拡充

- 地域経済活性化への取組み強化
- 環境変化や多様化する金融サービスへの対応
- 地域貢献・社会貢献活動の展開

経営体質の向上

- 経営管理態勢の充実
- 経営効率の向上
- 顧客(会員)満足度の向上

組織力の強化

- 人材育成の強化
- 営業用基盤の拡充
- 職員満足度 (ES) の向上

計 数 目 標

(平成29年度)

預 金

期末残高…900億円
期中平残…900億円

貸 出 金

期末残高…525億円
期中平残…500億円

収 益

コア業務純益
151百万円

Topics トピックス 2016

あなたの
隣に、
いつも
しましん。



1



2



3



4



5



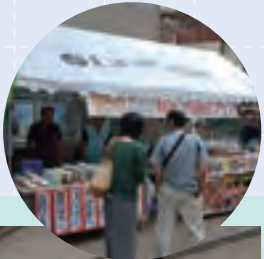
6



7



9



11



13



15



12



14



16



8

■5月25日
『しましんアグリローン(日本政策金融公庫CDS付)』を発売しました。▶写真①

■6月15日
金利上乗せ定期預金「序章」を発売しました。▶写真②

■7月1日
「経営企画部」と「総務部」を統合し、本部組織を5部体制に変更しました。

■7月6日
個人インターネットバンキング「ワンタイムパスワード認証」(ソフトウェアトークン)を導入しました。

■7月21日
『祝・松江城天守国宝記念定期預金』を発売しました。▶写真③

■金利上乗せ定期預金『島根サノオマジック応援定期預金』を発売しました。▶写真④

■9月14日
三刀屋支店ATMコーナーの利用時間の拡大、ならびに休日稼働を開始しました。

■10月21日
営業地区を島根県全域に拡張するとともに、新たに鳥取県境港市を加えました。

■11月16日
懸賞品付金利上乗せ「ふるさと応援定期預金」を発売しました。▶写真⑤

■11月30日
当金庫スマートフォンサイトを開設しました。

■1月18日
『しましんファミリーサポート定期積金』を発売しました。▶写真⑥

■2月1日
「地域貢献部」の法人営業部門を独立させ、「法人営業部」を新設し、本部組織を6部体制に変更しました。

■退職金専用金利上乗せ定期預金『しましんセカンドステージ』を発売しました。▶写真⑦

■2月22日
『しましんIT活用気づきセミナー&個別相談会』を開催しました。▶写真⑧

■2月25日
『しましんDanDanカーローン』を発売し、発売を記念し「特別金利キャンペーン」を開始しました。▶写真⑨

■3月30日
学校法人澤田学園と産学連携と協力に関する協定を締結しました。▶写真⑩



10



17

社会・地域貢献活動

■4月11・12日
第3回しましんカップミニバスケットボール大会を開催しました。▶写真⑪

■4月25日
ボランティア活動として宍道湖畔の清掃を行いました。▶写真⑫

■5月16日
しましんお楽しみ講演会を開催しました。▶写真⑬

■6月14日
「日本列島クリーン大作戦」に参加しました。▶写真⑭

■6月15日
「第4回雲南(雲南市・奥出雲町・飯南町)観光・特産品フェア」が当金庫本店前敷地・ギャラリーにて開催されました。▶写真⑮

■7月24日
松江白潟天満宮天神輿渡御に企業宮として参加しました。▶写真⑯

■11月14日
『島根サノオマジック』しまね信用金庫スポンサードゲームを開催しました。▶写真⑰

■11月16日
島根県・松江市・松江森林組合と森林保全に関する協定を締結しました。▶写真⑱

■11月19日・26日
しましんお楽しみ旅行を実施しました。▶写真⑲

■3月5日
第1回「しましんだんだんの森」森林保全を実施しました。▶写真⑳



18



19



20

事業の概況

● 平成27年度 事業の概況

国内経済については、一部に強い動きが見られたものの、輸出が弱含みで推移したほか、生産活動も横這い傾向が継続するなど、総じてやや足踏みの状況となりました。

景気の先行きについては不透明感が強く、中国や欧州など海外の経済状況と相まって、個人消費や企業の設備投資に慎重な見方もあり、マイナス金利による効果も現段階では明白でなく、全体としては方向感が定まらない状況となっています。

この様な経済状況の中、当金庫は新たな3ヵ年経営計画「第4次しましん中期計画2015」を策定し、初年度である平成27年度は『あなたの隣に、いつも“しましん”』～お客様のために、お客様と共に歩む信金をめざして～のテーマのもと、全役職員一丸となって営業活動に取り組んでまいりました。

具体的には、平成28年2月に「地域貢献部」の法人営業部門を独立させ、「法人営業部」を設置し、事業に関わる情報を一元化する事で、事業先の様々なニーズや困り事解決に向けて、より一層機動的に経営支援、営業支援に取り組んでまいりました。

また、平成27年度におきましては、お客様のためにこれまで以上に地域金融機関としての役割を果たし、より一層の地域密着を果たす事を目的に、当金庫を含めた県内3信用金庫が連携して取引先の幅広いニーズに対応するため、平成27年10月21日に3信用金庫が営業地区を拡張しました。

調達面におきましては、コア預金となる個人預金の増強に努め、夏季より金利上乘せ定期預金「序章」、金利上乘せ定期預金「島根スサノオマジック応援定期預金」、「祝 松江城天守国宝記念定期預金」、秋季より懸賞品付金利上乘せ「ふるさと応援定期預金」、冬季より「しましんファミリーサポート定期積金」の取扱を行いました。

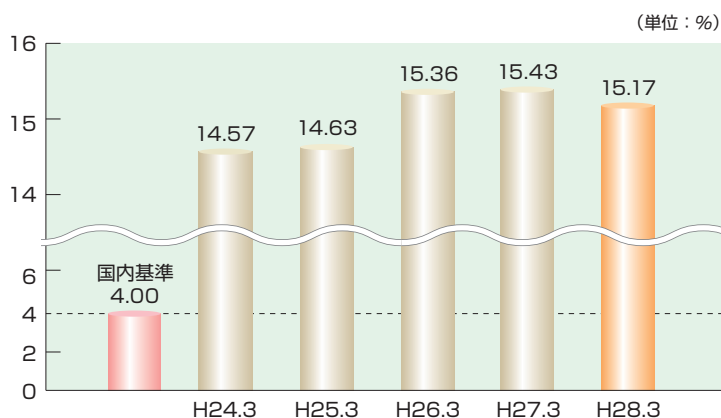
一方運用面におきましては、平成27年5月に農業を営む法人・個人事業主の方を対象として、農業経営に必要な運転資金または設備資金にご利用いただける「しましんアグリローン(日本政策金融公庫CDS付)」を発売しました。また、個人の方の自家用車・自家用2輪の購入をよりよい条件にて資金供給する目的で、平成28年2月に「しましんDanDanカーローン」を発売し、発売を記念し特別金利キャンペーンを実施しました。

この結果、平成27年度の業績につきましては、期末預金残高84,798百万円、期末貸出金残高50,662百万円となり預金・貸出金ともに前期より増加となりました。

収益面につきましては、市場金利が低い水準で推移する中、貸出金利息収入の減少を主因として資金運用収益は対前期比35百万円減少となりましたが、貸倒引当金繰入の減少を主因として、経常利益は対前期比58百万円増加しました。以上のほか、固定資産の減損損失など特別損失に計上した結果、税引前当期純利益は176百万円となり、最終的に当期純利益につきましては、対前期比23百万円増加の151百万円となりました。

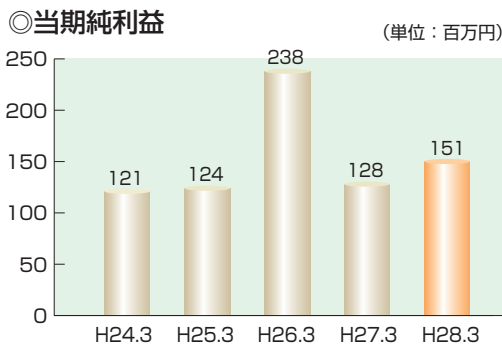
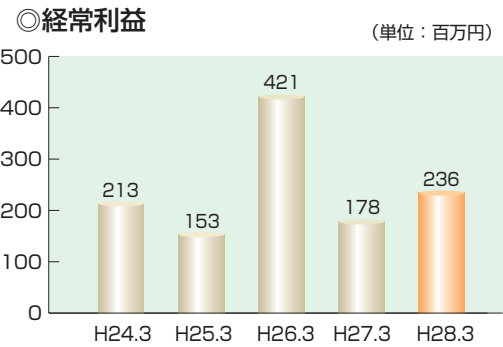
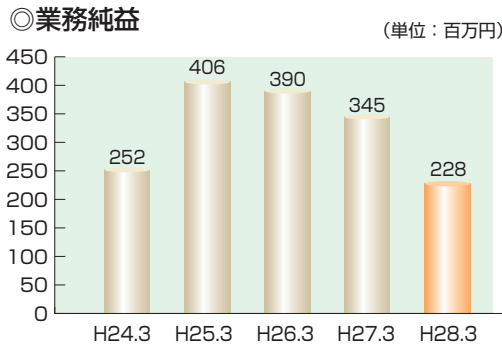
また、自己資本比率につきましては、対前期比0.26ポイント低下の15.17%となりましたが、国内基準の4%を大きく上回り、経営の安全性・健全性については引続き高い評価を得ています。

● 自己資本比率の状況

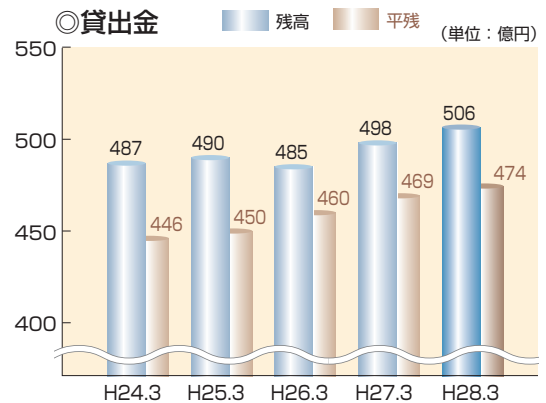
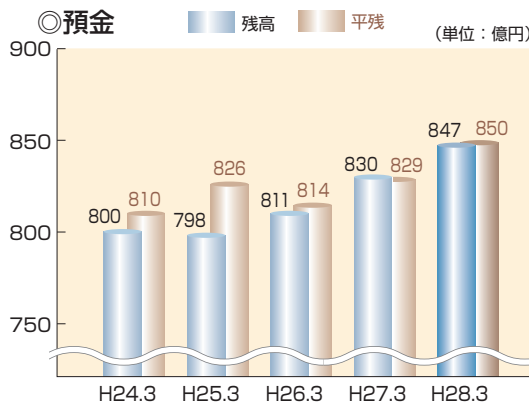


平成28年3月期の自己資本比率は国内基準の4%を大きく上回る15.17%となっており、経営の安全性・健全性について高い水準を維持しています。

収益の状況



預金・貸出金の状況



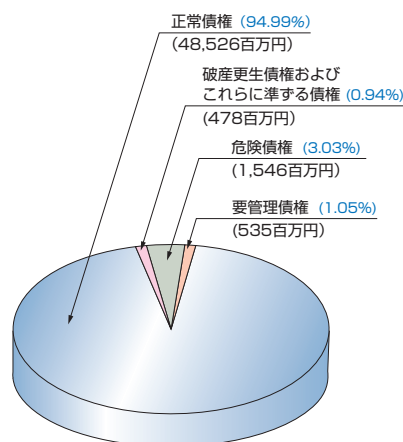
資産内容の状況

(1) 金融再生法に基づく開示債権と保全状況 (平成28年3月末)

(単位：百万円)

	残高
破産更生債権およびこれらに準ずる債権	478
危険債権	1,546
要管理債権	535
小計……(A)	2,560
正常債権	48,526
合計	51,087
保全額……(B)	2,181
貸倒引当金	587
担保・保証等	1,594
保全率 (B) / (A)	85.19%
不良債権比率	5.01%

(2) 開示債権の構成比



《用語解説》

*破産更生債権およびこれらに準ずる債権

破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権およびこれらに準ずる債権です。

*危険債権

債務者が経営破綻の状態には至ってはいないが、財政状態および経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収および利息の受け取りができない可能性の高い債権です。

*要管理債権

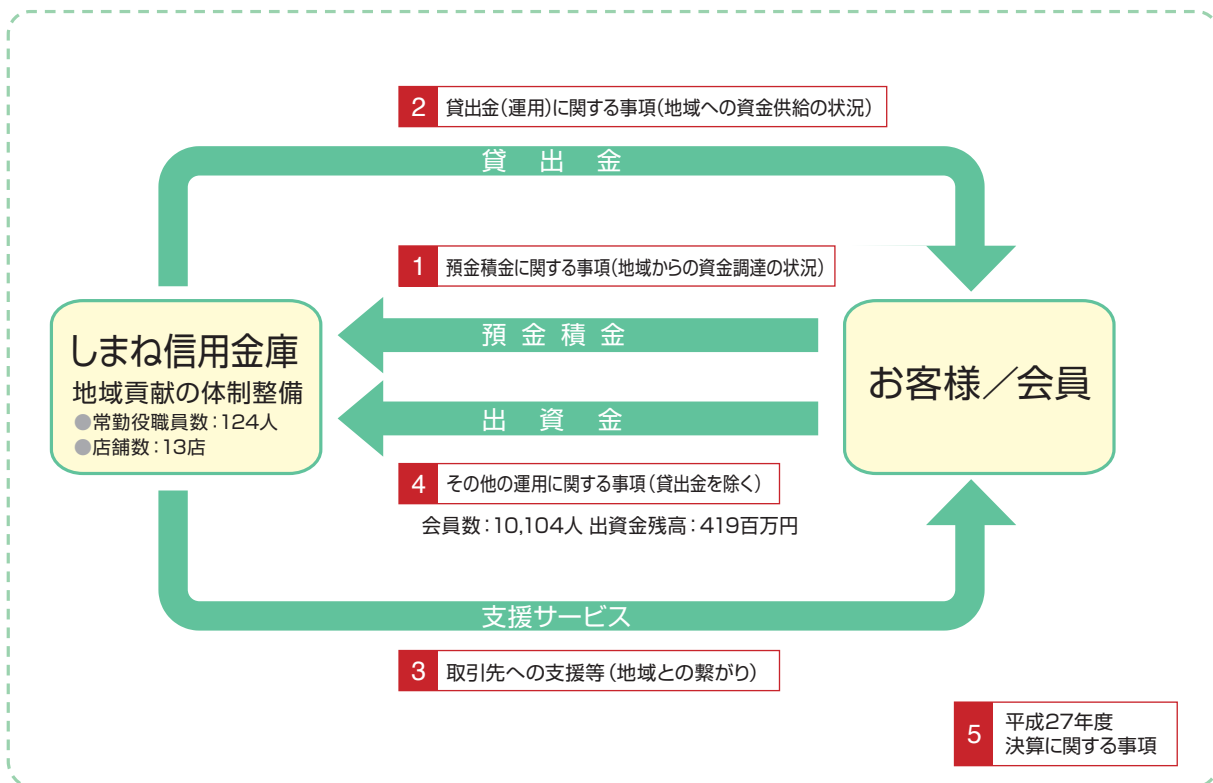
自己査定において要注意先に区分された債務者に対する債権のうち、3カ月以上延滞債権および貸出条件緩和債権に該当するものをいいます。

社会的責任と地域貢献活動

社会的責任に対する考え方

当金庫は、島根県東部を事業地域の中心として、地元の中小企業や住民の皆様が会員となって、お互いに助け合い、発展していく相互扶助の理念に基づき、地域の皆様へ金融サービスを提供する地域金融機関です。地元のお客様からお預かりした大切な資金（預金積金）は、地元で資金を必要とするお客様に融資を行うことで、事業や生活の繁栄のお手伝いをすると共に、地域社会の一員として地元の中小企業や住民の皆様との強い絆とネットワークを形成し、地域経済の持続的発展に努めております。また、金融機能の提供にとどまらず、文化・環境・教育といった面も視野に入れ、地域における社会的使命・社会的役割を果たすべく、広く地域社会の活性化に積極的に取り組んでおります。

取組み状況の概要



1 預金積金に関する事項(地域からの資金調達の状況)

当金庫では、お客様の大切な財産の運用を安全・確実・気軽にご利用いただけるように、また、目的や期間に応じて選択いただけるよう各種預金を取り揃えております。平成27年度の特徴的な商品としては、城下町松江に本店を置く金融機関として、松江城天守の国宝指定を記念して発売した、「祝 松江城天守国宝記念定期預金」、金利上乘せ定期預金「島根スサノオマジック応援定期預金」、年金受給者の方を対象とした金利上乘せ定期預金や退職者の方を対象とした金利上乘せ定期預金の取扱いを致しました。なお、その他の商品につきましては、24・25ページをご覧ください。

預金積金残高【84,798百万円】

2 貸出金(運用)に関する事項(地域への資金供給の状況)

お客様からお預り致しました預金積金は、お客様の様々なニーズに応え、地域経済活性化のために、円滑な資金供給を行う形でお客様や地域社会に還元しており、地元企業に対し、設備資金に10,126百万円、運転資金に19,572百万円をご融資しております。また、個人のお客様に対しては、住宅ローンに5,126百万円、消費者ローンに3,540百万円をご融資しております。

融資残高【50,662百万円】 預貸率【59.74%】

3 取引先への支援等(地域との繋がり)

中小企業の支援・育成、また、地域住民の生活向上を図ることが地域社会の再生、活性化につながるものであり、地元取引先企業の経営相談、アドバイス等、支援に心掛け、地域密着型金融[※]の推進強化に努めています。

地域の企業経営者や後継者の方を対象に昭和44年から「しましん青友会」を雲南地区各店中心に5地区で結成しています。講演会・勉強会・奉仕活動・レクリエーション等の活動の他、預金や融資制度もあり、資金繰りの安定化や体質の強化等、地域各企業の発展に貢献しています。宍道支店では、経営者の方を中心に「しましん信交会」を結成し活動しており、昨今の経済状況の中で益々期待が高まっています。

従来、取引先企業の販路拡大等の経営支援や各地域のお客さま組織への対応、また地域ごとのイベント参加やボランティア活動、環境問題への取組み等の地域貢献・社会貢献活動については、各営業店や本部各々が担当するなど、それぞれが独立した活動となっていたことから、これらを組織横断的に担当する専門部署として平成24年7月「地域貢献部」を設立しました。

※地域密着型金融とは……地域金融機関が顧客との間で親密な関係を長く維持することによりお客様に関する情報を蓄積し、この情報を基に貸出等の金融サービスの提供を行うことをいいます。

4 その他の運用に関する事項(貸出金を除く)

当金庫はお客様の預金積金を、ご融資による運用の他に、次の通り有価証券による運用も行っております。

※有価証券残高…… 27,222百万円

預証率【32.1%】

●国債 …… 3,728百万円	●株式 …… 114百万円
●地方債 …… 5,434百万円	●その他 …… 7,689百万円
●社債 …… 10,254百万円	

5 平成27年度決算に関する事項

国内経済については、一部に強い動きが見られたものの、輸出が弱含みで推移したほか、生産活動も横這い傾向が継続するなど、総じてやや足踏みの状態となりました。

景気の先行きについては不透明感が強く、中国や欧州など海外の経済状況と相まって、個人消費や企業の設備投資に慎重な見方もあり、マイナス金利による効果も現段階では明白でなく、全体としては方向感が定まらない状況となっています。

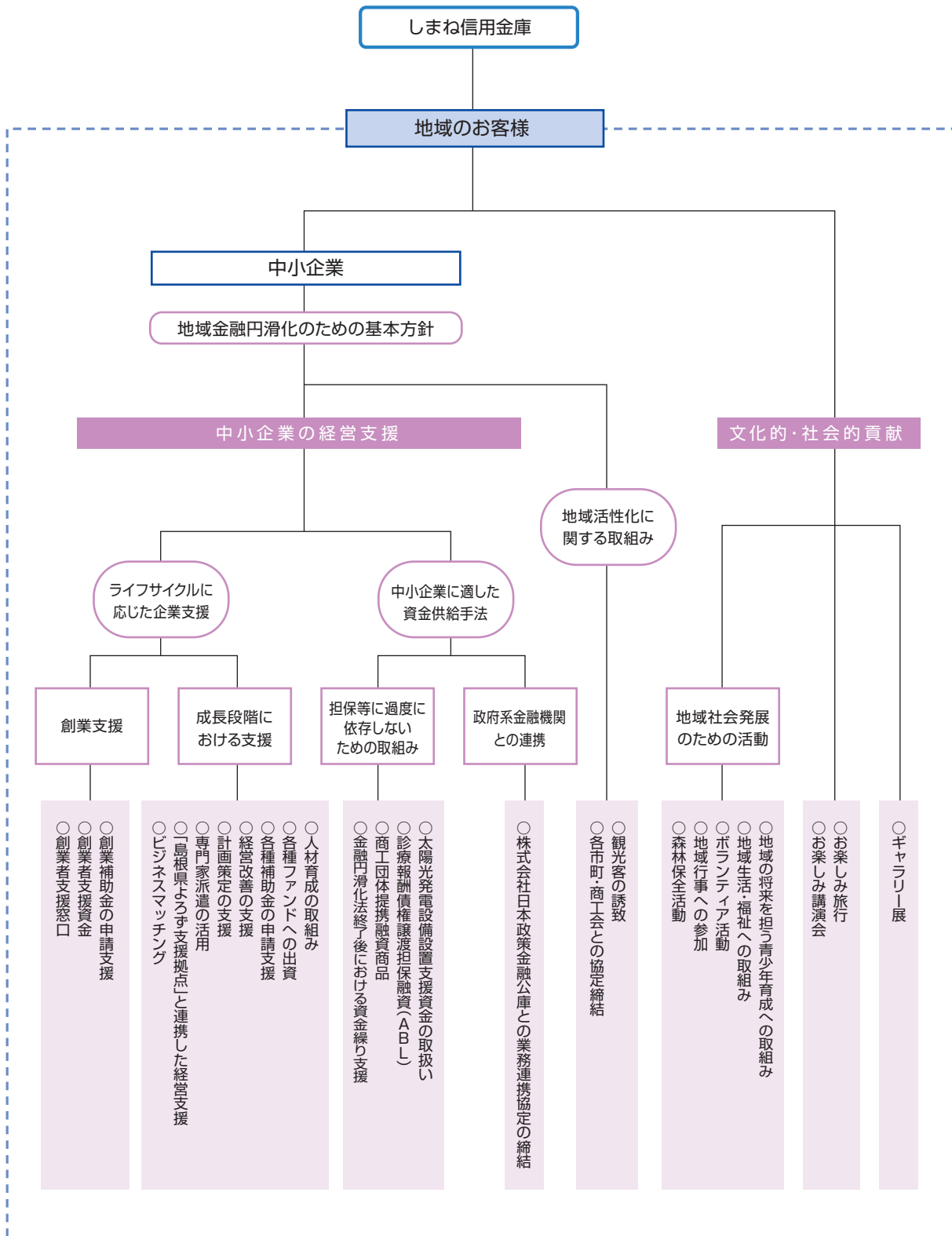
このような経済状況の中、当金庫は平成27年度に新たな3ヵ年経営計画「第4次しましん中期計画2015」を策定し、全役職員一丸となって営業活動に取組んだ結果、平成27年度の業績につきましては、期末預金残高847億98百万円と対前期比較で17億11百万円増加し、貸出金残高については506億62百万円となり対前期比較で8億29百万円増加となりました。

収益面につきましては、市場金利が低い水準で推移する中、貸出金利息収入の減少を主因として資金運用収益は対前期比35百万円減少となりましたが、貸倒引当金繰入の減少を主因として、経常利益は対前期比58百万円増加しました。以上のほか、固定資産の減損損失など特別損失に計上した結果、税引前当期純利益は1億76百万円となり、最終的に当期純利益につきましては、対前期比23百万円増加の1億51百万円となりました。

また、自己資本比率につきましては、対前期比0.26ポイント低下の15.17%となりましたが、国内基準の4%を大きく上回り、経営の安全性・健全性については引続き高い評価を得ています。

※計数は平成28年3月末現在

● 中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組み等



地域金融円滑化のための基本方針

しまね信用金庫は、地域とともに歩む協同組織金融機関として、地域の中小企業および個人のお客さまに必要な資金を安定的に供給し、地域社会の発展に寄与するため、以下の方針に基づき、地域経済の活性化及び金融の円滑化に全力を傾注して取り組んでまいります。

1. 取組方針

- お客さまや地域の関係機関との日常的・継続的な接触により、地域情報を収集・蓄積しお客さまに還元するとともに、自治体、商工団体、外部機関との地域の面的再生に向けた検討会議ならびにプロジェクト等への積極的な参画により、地域経済の活性化に取り組みます。
- お客さまのビジネスにおける取引拡大やビジネスパートナー探しなど、ビジネスマッチングによる販路開拓等の支援に積極的に取り組みます。
- お客さまからの資金需要や貸付条件の変更等のお申込みがあった場合には、お客さまがお抱えになっている問題を十分に把握し、その解決に向けて真摯に取り組みます。
- お客さまからの貸付条件の変更等のお申込みがあった場合には、口頭でのお申込みも含め、お申込みの内容の記録と保存、受付から回答までの進捗管理を徹底し、迅速な対応に努めます。
- お客さまが他の金融機関、信用保証協会、政府系金融機関等または、住宅金融支援機構との取引がある場合には、守秘義務に留意しつつ、お客さまから同意をいただいた上で、当該金融機関等と連携して円滑な資金供給やお借入れの返済に係る負担の軽減に資する措置をとるよう努めます。
- お取引内容や借入れ条件について、お客さまにご納得とご理解をいただけるよう、丁寧に説明を行うよう努めます。
- お客さまのお申込みにそえない場合は、これまでの取引関係等を踏まえ、その理由についてお客さまにご納得いただけるよう、速やかに具体的、かつ丁寧な説明を行うよう努めます。

【中小企業のお客さま】

- 中小企業者のお客さまからのご融資の申込みなどにおいて、借入れ条件の変更履歴があるというような形式的な事象にとらわれることなく、お客さまの技術力・販売力や成長性・将来性、定性面の評価などを総合的に勘案し、適切な審査を行います。
- 平成25年12月5日に公表された「経営者保証に関するガイドライン」(以下ガイドラインという。)の趣旨を尊重し、中小企業者のお客さまからのご融資の申込みなどにおいて、経営者保証を求めない可能性の検討や経営者保証の機能を代替する融資手法のメニューの充実など経営者保証に依存しない融資の一層の促進を図るよう努めます。
- 中小企業者のお客さまとの間で経営者保証を締結する場合は、「ガイドライン」に基づき、保証契約の必要性や必要性が解消された場合の保証契約の変更・解除等の見直しの可能性があることを、また保証債務の履行時は、一律に保証金額全額に対して行うものではなく、保証人の資産状況等を勘案した上で、整理の範囲が定められていることについて具体的かつ丁寧な説明を行うよう努めます。
- 保証債務の整理に当たっては、「ガイドライン」の趣旨を尊重し、関係する他の金融機関、外部専門家(公認会計士、税理士、弁護士等)、外部機関(中小企業再生支援協議会等)とも十分連携・協力するよう努めます。
- また、保証金額の設定に当たっては、中小企業者のお客さまの思い切った事業展開や早期事業再生を阻害しないよう、形式的に保証金額と融資額と同額とはせず、保証人の資産や収入の状況、融資額、お客さまの信用状況、物的担保などの設定状況、お客さま及び保証人の適時適切な情報開示姿勢等を総合的に勘案するなど適切な保証金額の設定に努めます。
- お客さまの育成・成長につながる新規の融資にあたっては、不動産担保や保証に依存しないABL等やプロパー商品の活用について積極的に取り組みます。
※ABL(アセット・ベースド・レンディング)とは、企業の事業価値を見極めた上で、企業が持っている原材料・仕掛品・商品等の在庫、生産を行うための機械設備等や売掛金債権等の資産を担保として資金を貸し出す仕組みをいいます。
- 中小企業者のお客さまからの借入れ条件変更等のお申込みがあった場合には、事業についての改善指導や経営改善計画の策定支援など、きめ細かくご相談に応じます。
- 中小企業者のお客さまの継続的なサポート体制として、定期的に、経営改善計画の進捗状況を検証・確認するとともに、必要に応じて経営改善計画の見直しを助言、支援するなど、コンサルティング機能を発揮し、きめ細かな対応に努めます。
- 中小企業者のお客さまの円滑な資金供給や貸付条件の変更等のお申込みにあたっては、中小企業再生支援協議会、地域経済活性化支援機構、事業再生ADR解決事業者などの外部機関や外部専門家等と緊密に連携し、第三者的な視点や専門的知見・機能を積極的に活用し、中小企業者のお客さまの事業の改善、再生に取り組みます。

【住宅ローンをご利用のお客さま】

- 住宅ローンをご利用されているお客さまからの借入れ条件の変更等のお申込みがあった場合には、お客さまの生活に支障が生じることのない、無理のない返済に向けて、お客さまの財産および収入の状況を十分に勘案し、きめ細かくご相談に応じます。

2. 金融円滑化措置の円滑な実施に向けた態勢整備

当金庫は、上記取組方針を適切に実施するため、以下の通り必要な態勢整備を図っております。

- 平成21年12月7日から、「金融円滑化相談窓口」を全店に設置し、支店長を金融円滑化対応責任者として配置し、お客さまへのきめ細やかな相談に応じる体制となっています。また金融円滑化に関するメール相談受付を、平成22年2月5日より行っています。
- 理事会等において本基本方針、金融円滑化管理方針および金融円滑化管理規程の制定を決議し、金融円滑化管理の適切な実施を図るために、審査担当理事を金融円滑化管理責任者としました。
- 理事会等は、審査部から定期的に金融円滑化の取組状況について報告を受けることにより、金庫全体で取組状況や問題点を共有し、必要に応じて改善に努めます。
- 金融円滑化管理責任者および顧客説明統括管理責任者、審査部は、顧客説明の適切性の検証を定期的に行い、金融円滑化に関する取組が適切に遂行されるよう態勢整備に努めます。
- お客さまの事業価値を見極める能力を向上させるための研修を行います。
- お客さまの利便性向上のために、お客さまからの金融円滑化に関する苦情相談窓口として、平成22年2月に専用フリーダイヤルを本部(経営企画部)に設置しました。(0120-232-201)
- お客さまの苦情相談の解決やその再発防止のために、所管部(経営企画部)は、苦情相談の内容や対応状況について、速やかに役員及び関係部へ報告し、対応状況を検証するとともに関係部に対し問題解決に向けた取り組みを指示するなど改善に努めます。

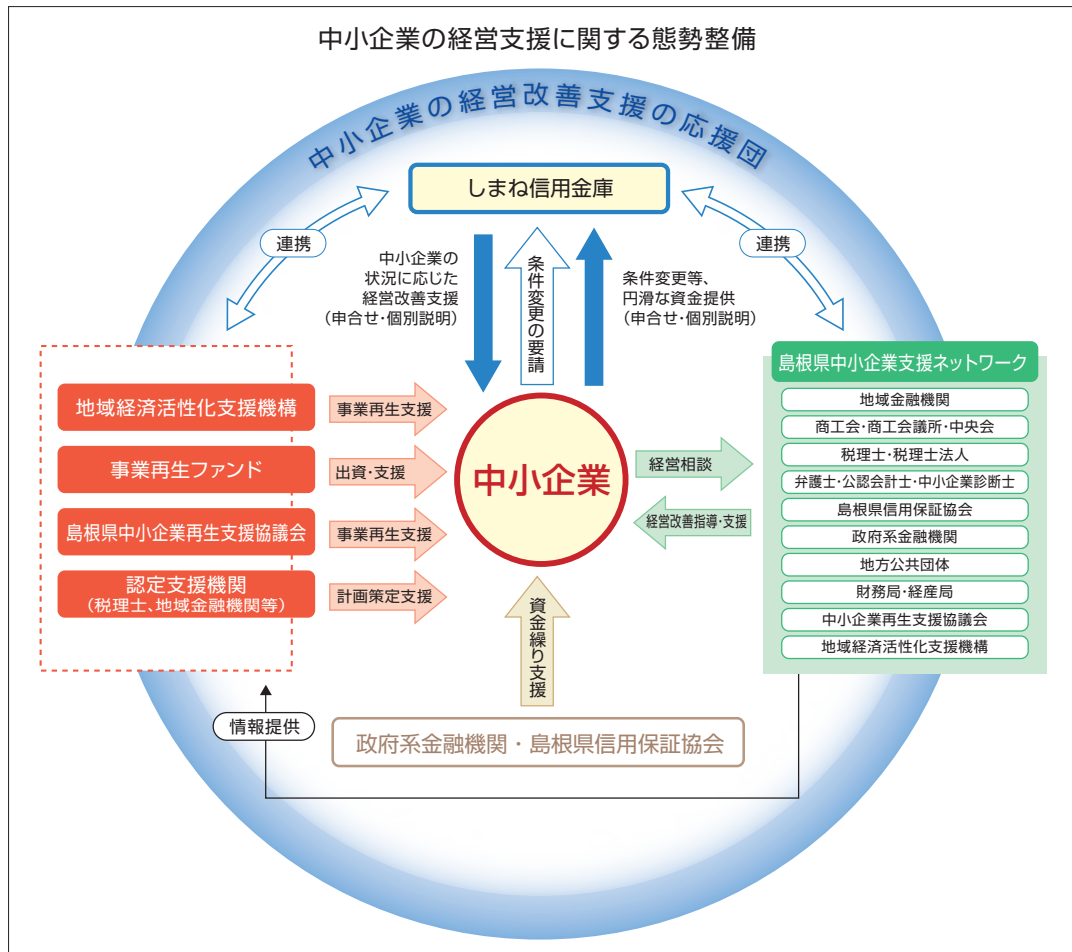
中小企業の経営支援

中小企業の経営支援に関する態勢整備の状況

平素より地域のための金融機関として地域を大切に、地域への貢献を重視していくことが協同組織としての信用金庫の使命と考え、これまで以上に地域社会や地元関係機関との連携に努め、預金や融資といった金融サービスだけでなく信金本来の地域取引先のお役に立つ営業姿勢を貫くことにより、より一層頼りにしていただける存在感のある“しましん”をめざしています。

経営改善支援の所管部署を審査部、販路支援やビジネスマッチング、事業承継等の支援の所管部署を地域貢献部とし、中小企業の経営支援にあたっては、当金庫単独の対応ではなく、外部の専門家や外部機関との連携・協力により支援の強化を図っています。

- 中小企業の身近な相談相手となり、経営改善・事業再生に向けた支援や国が行う様々な中小企業支援施策のサポートを行うため、当金庫全店が平成24年11月に中小企業経営力強化支援法における経営革新等支援機関に認定されました。各種補助金の申請支援、専門家派遣、国や自治体の実施する中小企業支援施策の活用提案、その他様々な経営課題解決のため、外部機関と連携した支援を行っています。
- 当金庫は、「中小企業・小規模事業者ワンストップ総合支援事業(ミラサポ)」において専門家派遣要請が可能な支援機関となっており、中小企業の各種経営課題解決のため、積極的に専門家派遣事業の活用を行っています。
- 平成27年4月に当金庫と企業再建・承継コンサルタント協同組合(CRC)とで業務提携契約を締結し、取引先企業へのコンサルティング機能強化に取り組んでいます。
- 平成27年4月に島根県内に本店を置く民間金融機関としては初めて、日本政策金融公庫とCDS(クレジット・デフォルト・スワップの略。)に関する基本契約を締結し、農業者向け無担保・無保証融資の取組みを強化しました。
※CDSとは債務保証に類似した信用リスクを移転するための取引で、当金庫が補償手数料を支払うことで、日本政策金融公庫が個別案件毎に融資金額の8割を限度に補償を行うもの。
- 当金庫が連携する外部専門家、外部機関等
島根県中小企業再生支援協議会、各商工会議所、各商工会、(公財)しまね産業振興財団、島根県信用保証協会、島根県、各市町村、よろず支援拠点、(独)中小企業基盤整備機構、地域経済活性化支援機構、ごうぎんキャピタル(株)、信金中央金庫、日本政策金融公庫、企業再建・承継コンサルタント(協)、他の地域金融機関、中小企業診断士、税理士、公認会計士、弁護士等 敬称略、順不同



中小企業の経営支援に関する取組

1 ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化

■創業・新規事業開拓の支援

○創業者支援窓口の取組み

親身になって相談に応じ、事業の成功をお手伝いできる地域金融機関として、創業・起業を志す方を力強くサポートすることを目的に、平成25年2月から「創業者支援窓口」を全店に開設しています。

○創業者支援資金の取扱い

創業時等に必要な資金の調達を支援し、当地における起業・創業を促進するため、平成25年10月から商工団体、しまね産業振興財団と提携したプロパー商品「しましん創業者支援資金“やらこい!”」の取扱いを開始しています。創業後においても金融機関と支援機関が一体となって経営支援を行います。また、平成26年1月には、法人の場合でも経営者保証を不要とする商品改定を行い、完全無保証人の融資制度としました。



【創業者向け融資実績】(H27年度)

	件数	金額(千円)
プロパー	2	4,500
保証協会付	14	95,460
合計	16	99,960

○創業補助金の申請支援

創業補助金にかかる創業計画、申請書類作成について、当金庫が認定支援機関または連携金融機関として申請支援を行っています。また、採択されたものについて補助金受領までのつなぎ融資にも積極的に応じています。

■成長段階における支援や経営改善・事業再生の支援

○ビジネスマッチングの取組み

平成24年9月より、取引先企業の販路拡大、仕入れ・外注先の確保、新たなビジネスパートナー探しの支援をすることを目的に「しましんマッチングサービス」を開始しました。信金中央金庫を介して、より大きな信用金庫業界のネットワークを利用することで全国への情報発信も可能となっています。

平成27年度の取組みとして、売り手と買い手の双方を当金庫にて引き合わせ、20件のマッチングが成約となりました。また、成約まではまだ至っていないものの、信金中央金庫を介して全国に情報発信を行い、東京の企業から商談の引き合いのあった案件もありました。

【マッチング成約数】(H27年度)

20件

○「島根県よろず支援拠点」と連携した経営支援

平成26年5月に公益財団法人しまね産業振興財団内に設置された、「島根県よろず支援拠点」と連携し、売上拡大・販路支援、経営改善、事業再生、事業承継など、企業が抱える課題解決のための支援を実施しています。平成27年度の相談取扱件数は23件でした。

○専門家派遣の活用

取引先企業の経営課題解決のため、外部の支援機関等が実施する専門家派遣事業を積極的に活用しています。

【専門家派遣活用実績】(H27年度)

活用事業名	先数
ビジネス創造等支援事業	5
保証協会スキルアップサポーター	12
経営力強化アドバイザー	3
専門家直接依頼	1
よろず支援拠点 コーディネーター派遣	23
その他	2
合計	46

○計画策定支援の取組み

取引先企業の経営状況に合わせ、事業計画や経営改善計画の策定支援、その後のモニタリング支援に取り組んでいます。また、島根県中小企業再生支援協議会との連携による再生計画策定支援にも積極的に取り組んでいます。

【再生支援協議会持込実績】
(H27年度)

3 先

○経営改善支援の取組み

平成27年度は経営支援先として28先を選定し、外部機関と連携した多面的な経営支援、経営改善計画の策定支援に取り組みました。

【経営支援先の取組状況】(H27年度)

期初債務者区分	先数	うち期末に債務者区分が			経営改善計画策定先数	
		変化なし	ランクアップ	ランクダウン		
正常先	2	2	0	0	1	
要注意先	うち 其他要注意先	25	23	0	2	14
	うち 要管理先	0	0	0	0	0
破綻懸念先	1	1	0	0	1	
合 計	28	26	0	2	16	

○各種補助金の申請支援の取組み

取引先企業の新たな取組みや設備投資に際し補助金の活用をご提案し、外部機関と連携し申請支援に引き続き取り組みました。

【補助金申請支援実績】(H27年度)

活用補助金名	件数	うち採択
ものづくり・商業・サービス補助金	3	1
取引拡大型試作開発助成金	1	1
雲南市地域商業等支援事業費補助金	1	1
合 計	5	3

○各種ファンドへの出資

新産業創出、新分野進出の促進等を目的とする産業活性化ファンドや、地元中小企業の再生を目的とする地域再生ファンド等へ出資し、地域の経済活力や雇用について大きな役割を果たす中小企業の成長や再生を支援しています。

【出資状況】

ファンド名	出資額
山陰中小企業支援3号ファンド	15百万円
島根産業活性化ファンド	20百万円
島根中小企業未来挑戦ファンド	20百万円

○人材育成の取組み

取引先企業の技術力、販売力、成長性等を的確に評価する「目利き力」の向上、経営改善・事業再生能力向上のための人材育成に積極的に取り組んでいます。

【研修参加実績】(H27年度)

研 修 名	受講人数
コンサルティング機能強化研修	2名
事業性評価および特定支援研修会	1名
事業再生・事業承継研修	6名
目利き力実践研修	1名
女性のための融資力強化研修、女性管理職融資入門研修	2名
融資担当者庫内研修(介護事業者向け融資、農業者向け融資)	延べ37名

《庫外出向》

出 向 先	目 的
投資事業会社	ベンチャー企業、再生企業への投資活動等を通じた目利き、コンサルティング能力の向上
島根県よろず支援拠点	地域の支援機関と連携し、様々な企業相談に対応する「よろず支援拠点」のコーディネーターとして出向

② 事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底

■不動産担保・個人保証に過度に依存しない融資商品の取組み

【不動産担保・個人保証に過度に依存しない融資の取組実績】
(H27年度)

件数	金額
36件	1,077百万円

○金融円滑化法終了後における資金繰り支援

担保や第三者保証人に頼らない「しましん企業活性化支援資金リレーション“絆”」などにより、金融円滑化法終了後における資金繰りを支援しています。

○商工団体提携融資商品の取扱開始

商工団体と連携し、基本的には商工団体が審査して当庫が貸出を行うプロパー商品「しましん企業活性化支援資金リレーション“絆”Ⅱ」を平成24年9月に発売しました。商工団体の推薦により、融資実行までスピーディな対応が可能な商品としています。

○診療報酬債権譲渡担保融資（ABL）の取扱開始

医療、介護事業、調剤薬局等を営む事業者に対し、診療報酬を担保とする当金庫独自のプロパー商品「診療報酬債権譲渡担保融資（ABL）」を平成25年9月に取扱開始しました。

○太陽光発電設備設置支援資金の取扱開始

地域資源を有効に活用できる再生可能エネルギーの普及促進を図ることを目的とし、太陽光発電設備の導入を支援するプロパー商品「しましん太陽光発電設備設置支援資金 ソーラーえ〜な」の取扱いを平成26年7月に開始しました。発電能力10kW以上50kW未満を対象とした原則無担保の商品となっており、当金庫で収支シミュレーションの作成支援も行っております。



○「しましんアグリローン」の取扱開始

農業者の皆さまの無担保・無保証融資のニーズにお応えするため、日本政策金融公庫の信用補完スキームであるCDS（クレジット・デフォルト・スワップの略。債務保証に類似した信用リスクを移転するための取引で、当金庫が補償手数料を支払うことで、日本政策金融公庫が個別案件毎に融資金額の8割を限度に補償を行うもの。）を活用し、平成27年5月に「しましんアグリローン」の取扱いを開始しました。

■政府系金融機関との連携支援

○株式会社日本政策金融公庫との業務連携支援

平成26年4月に、株式会社日本政策金融公庫と「業務提携・協力に関する覚書」を締結しております。業務提携により、相互にノウハウ等を補完・共有し連携することで、島根県内における創業予定者、中小企業者および農林水産業者に対する支援を円滑に行い、地域経済の活性化を図っています。具体的な取組みとして、創業予定者に対する連携した創業計画の策定サポートや、創業予定者向けや中小企業向けのセミナーの共催などを実施しています。また、資金面につきましても、相互の融資制度や特性を活かした協調融資により、円滑な資金供給に取り組んでおり、企業が抱える課題に幅広く応えられる体制を構築しております。平成27年度は、8件の協調融資を取組みました。



地域の活性化に関する取組状況

■各市町・商工会との協定締結

○各市町・商工会との産業協定締結

雲南市・奥出雲町・飯南町・各商工会と地域振興や産業振興に資する連携協定の一環として、平成27年6月の信用金庫の日に合わせて、「第4回雲南（雲南市・奥出雲町・飯南町）観光・特産品フェア」を開催しました。

1市2町の土地から生まれた新鮮な食品・食品加工品を実演販売、地域の観光PRとして風景や文化を彩ったパネルを展示、また、地元のゆるキャラを迎え、多くの来場者で賑わい、地域観光のPRを行いました。

○観光誘客への取組みについて

他県信用金庫主催の年金受給者を中心とした団体旅行等で島根県にお越しいただいた方に対し、到着地点にてお出迎えをし、訪れる方へ感謝の意を表す“おもてなし”を行っています。

その中で、島根県の観光キャラクター「しまねっこ」を招き、お客さまへ喜んでいただくなど、様々な取組に励んでいます。

なお、平成27年度においては、県外から5信用金庫、約1,800名の方々が島根県を訪れました。



県外信金旅行歓迎

【島根連許諾第3712号】

文化的・社会的貢献

◆地域社会発展に向けた様々な活動

しましんでは、地域の文化や産業の発展のため、各種行事への参加やボランティア活動、お客様サポート体制の充実や地域支援を通して、貢献活動を展開しています。

森林保全活動の取組み

当金庫は、CSRの取組みとして、以前よりエコ関連の預金ならびに融資の取扱を行い、その契約額等に基づき環境保護活動を実施しておりましたが、この活動の中・長期的な取組みとすべく「しまね企業参加の森づくり」事業に参画する事と致しました。その参画にあたり、平成27年11月に島根県・松江市・松江森林組合と当金庫にて「森林保全活動に関する協定書」を締結し、松江市八雲町の荒野にて役職員ならびにその家族で、平成28年3月に第1回の活動となる植栽活動を実施致しました。尚、松江市八雲町の荒野を「しましんだんだんの森」と命名し、緑の生い茂る森にすべく役職員一同で中・長期的に活動を行います。



島根県・松江市・松江森林組合との「森林保全活動に関する協定書」調印式



第1回「しましんだんだんの森」植栽活動

地域行事への参加

◎白湯天満宮神輿渡御企業宮参加

地元松江市で行われる、白湯天満宮神輿渡御へ企業宮として参加。職員が一丸となって担ぎ上げ、地域での存在感と、元気で活気のある「しましん」をPRしました。



白湯天満宮神輿

ボランティア活動参加

地域に密着する信用金庫として、地域への感謝の気持ちを伝えるため、地域貢献活動の一環として、ボランティア活動を行っています。また、各地域においてもしましん青友会員と共に積極的に清掃活動や地域イベントのボランティアを行っています。

地域生活・福祉への取組み

◎あいサポーター資格の取得・あいサポート企業認定、 認知症サポート運動

しましんでは、全店舗に「あいサポーター（障がい者サポーター）」、「認知症サポーター」を配置しています。また、しましんは、「あいサポート企業」の認定を受けています。これらの活動を通じて、誰もが暮らしやすい地域社会の実現をサポートしてまいります。



あいサポーターバッジ



認知症サポーターキャラバン イメージキャラクター

◎学校法人澤田学園との協定締結

平成28年3月に学校法人澤田学園と「産学連携と協力に関する協定書」を締結しました。当地は、医療・福祉に携わる人材不足という課題を抱えております。地域金融機関である当金庫は、この課題解決に何か貢献出来ないかとの思いで、松江市の誘致にて開校し、当地にて医療・福祉に携わる人材育成を担ってられる、学校法人澤田学園とこの協定を締結しました。



学校法人澤田学園との「産学連携と協力に関する協定書」締結

地域の将来を担う青少年育成への取組み

◎しましんカップミニバスケットボール大会の開催

スポーツを通して、地域の子供たちの体力の向上と技術の向上を図るとともに、交流の輪を広げ社会性を培うことを目的に、「第3回しましんカップミニバスケットボール大会」を開催しました。



第3回ミニバスケットボール大会の様子



お楽しみ講演会開催・お楽しみ旅行の実施

当金庫で、年金のお受け取りをいただいているお客様に、様々な特典を提供していますが、その一つに、年1回開催の「お楽しみ講演会」ならびに「お楽しみ旅行」のご案内があります。

平成27年度においては、島田洋七氏を講師として迎え「お楽しみ講演会」を開催。「お楽しみ旅行」は、宝塚歌劇へ日帰り旅行を実施。今回も、多くの方にご参加頂き、お客さまの輪が益々広がりました。



お楽しみ講演会



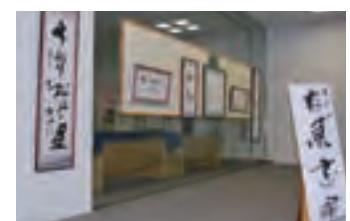
お楽しみ旅行

ギャラリー展

本店ギャラリーコーナーでは、モダンアート・俳句展や爽風書展など地域の皆様の作品展を開催しています。



モダンアート・俳句展



爽風書展

事業の運営に関する事項

リスク管理の基本的な考え方

金融の自由化、国際化、証券化の進展にともない、信用リスク、市場リスク、流動性リスク、事務リスク、システムリスクなど金融機関を取り巻く各種リスクがますます増大しています。

こうしたリスクを適切に管理することによって、健全性の確保と収益性の向上を図ります。

当金庫では、リスク管理の強化を経営の最重要課題のひとつとして位置付け、金融環境の変化に柔軟に対応できるリスク管理体制の確立に努めております。

■信用リスク

信用リスクとは、企業や個人への貸出金が回収不能、または利息が取立て不能になるリスクのことです。

当金庫では、貸出資産の健全性を維持するため、貸出審査部門と営業推進部門を分離し、厳格な審査体制を構築しています。

また、内部研修実施や外部研修への受講生派遣、本部による本支店の臨店指導及び本支店職員の審査トレーニー制度の実施など、貸出審査能力の向上を図っています。

■市場リスク

市場リスクとは、金利、株価、為替などの市況変動により保有資産・負債の価値が変動し金融機関が損失を被るリスクのことです。

当金庫では、このリスクの把握に努め、過度のリスクにならないよう資産・負債のバランスについてはALMシステムを活用し、金利予測・金利感応度分析を行っております。

有価証券についてもポートフォリオにおける市場リスクの計量把握に努め、適正で効率的な運用を目指しております。

■流動性リスク

流動性リスクとは、市場の混乱等により市場において取引できなかったり通常より著しく不利な価格での取引から損失を被る市場流動性リスクと、資金繰りがつかなくなる場合や著しい高金利での資金調達から損失を被る資金繰りリスクのことです。

当金庫では、市場流動性の状況を適切に把握し対応するとともに、資金調達・運用において適切かつ安定的な資金繰り体制の構築を目指しております。

なお、流動性リスクについては信金中金を中心としたバックアップ体制が整っております。

■オペレーショナルリスク

●事務リスク

事務リスクとは、預金や融資、為替等各種事務上のミスや不正による損失を受けるリスクのことです。

当金庫では、内部監査部門の監査部が、全営業店に対し定例的に臨店監査を実施すると共に、全営業店に店内検査の月例実施を義務付けています。また、日常の事務ミス防止のため、各種研修により職員の能力向上を図ると共に各種事務規定及びマニュアルを整備する等、事故の未然防止のために万全の体制をとっています。

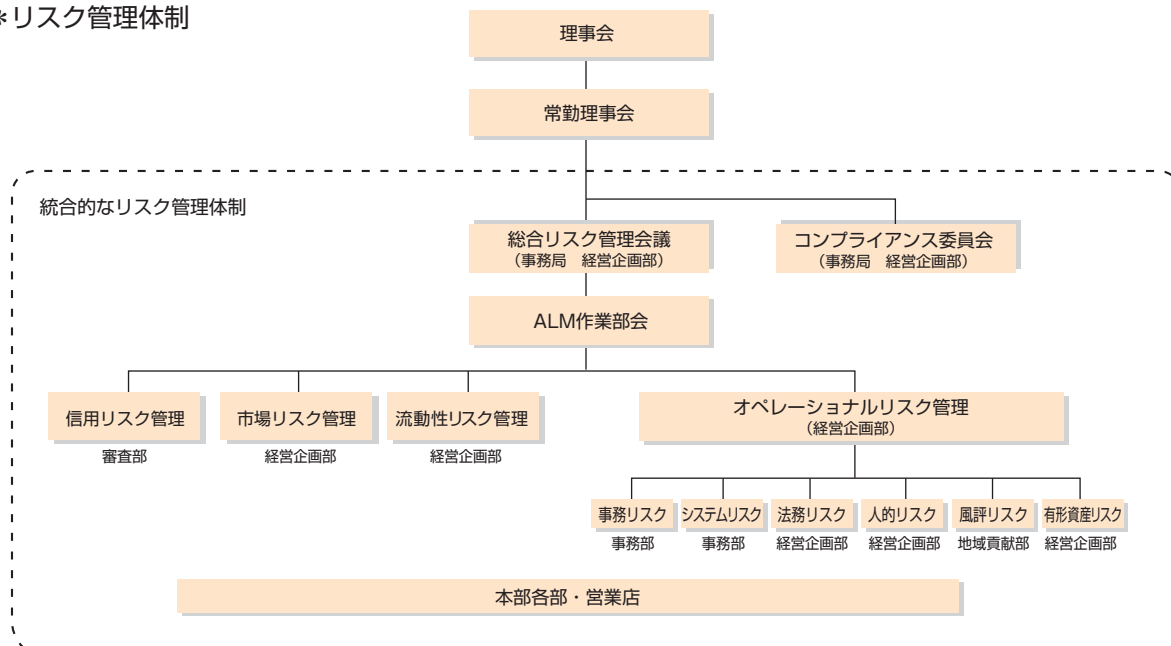
●システムリスク

システムリスクとはコンピュータシステムの障害、システムの不備、不正利用等により損失を被るリスクのことです。

当金庫は一般社団法人しんきん共同センターに加盟し、データバックアップ体制を確立し、コンピュータシステムに対するお客様の信頼の維持・強化を図っております。

※その他「法務リスク」「人的リスク」「風評リスク」「有形資産リスク」があります。

*リスク管理体制



● 内部管理基本方針

しまね信用金庫（以下、「当金庫」という。）は、以下のとおり、当金庫の業務の適正を確保するための体制を整備しています。

- 理事及び職員の職務執行が法令、定款に適合することを確保するための体制
- 理事の職務執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
- 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
- 理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- 監事とその職務を補助すべき職員を置くことを求めた場合における当該職員に関する事項
- 監事の職務を補助すべき職員の理事からの独立性に関する事項
- 監事への報告に関する体制
- その他監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- 当金庫及びその子法人等における業務の適正を確保するための体制

● お客様への対応

金融ADR制度

苦情処理措置

当金庫は、お客さまからの苦情のお申し出に公正かつ的確に対応するため業務運営体制・内部規則を整備し、その内容をホームページ、パンフレット等で公表しています。

苦情は、当金庫営業日（9時～17時）に営業店（電話番号は36ページ参照）または経営企画部（電話：0852-23-5505）にお申し出ください。

紛争解決措置

当金庫は、紛争解決のため、当金庫営業日に上記経営企画部または全国しんきん相談所（9時～17時、電話：03-3517-5825）にお申し出があれば、東京弁護士会（電話：03-3581-0031）、第一東京弁護士会（電話：03-3595-8588）、第二東京弁護士会（電話：03-3581-2249）の仲裁センター等にお取次ぎいたします。また、お客さまから各弁護士会に直接お申し出いただくことも可能です。

なお、前記弁護士会の仲裁センター等は、東京都以外の各地のお客さまにもご利用いただけます。その際には、お客さまのアクセスに便利な東京以外の弁護士会をご利用する方法もあります。例えば、東京以外の弁護士会において東京の弁護士会とテレビ会議システム等を用いる方法（現地調停）や、東京以外の弁護士会に案件を移す方法（移管調停）があります。ご利用いただける弁護士会については、あらかじめ前記「東京弁護士会、第一東京弁護士会、第二東京弁護士会、全国しんきん相談所または当金庫経営企画部にお尋ねください。

個人情報保護宣言（プライバシーポリシー）[抜粋]

当金庫は、お客様からの信頼を第一と考え、お客様の個人情報及び個人番号（以下「個人情報等」といいます。）の適切な保護と利用を図るために、個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成25年5月31日法律第27号）及び金融分野における個人情報保護に関するガイドライン、その他個人情報等保護に関する関係法令等を遵守すると共にその継続的な改善に努めます。また、個人情報等の機密性・正確性の確保に努めます。

そのため、個人情報の機密性・正確性の確保に努め、個人情報の適切な保護と利用に関する取組み方針（プライバシーポリシー）を制定し、公表しています。

1. 個人情報とは

本プライバシーポリシーにおける「個人情報」とは、「住所・氏名・電話番号・生年月日」等、特定の個人を識別することができる情報をいいます。

2. 個人情報等の取得・利用について

(1) 個人情報等の取得

当金庫は、あらかじめ利用の目的を明確にして個人情報の取得をします。また、金庫業務の適切な業務運営の必要から、お客様の住所・氏名・電話番号、性別、生年月日などの個人情報の取得に加えて、融資のお申込の際には、資産、年収、勤務先、勤続年数、ご家族情報、金融機関でのお借入れ状況など、金融商品をお勧めする際には、投資に関する知識・ご経験、資産状況、年収などを確認させていただくことがあります。

(2) 個人情報等の利用目的

当金庫は、次の利用目的のために個人情報を利用し、それ以外の目的には利用しません。個人番号については、法令等で定められた範囲

内でのみ利用します。お客様本人の同意がある場合、もしくは法令等により開示が求められた場合等を除いて、個人情報を第三者に開示することはありません。

3. 個人情報等の正確性の確保について

当金庫は、お客様の個人情報等について、利用目的の達成のために個人データを正確かつ最新の内容に保つよう努めます。

4. 個人情報等の開示・訂正等、利用停止等について

お客様本人から、当金庫が保有している情報について開示等のご請求があった場合には、請求者ご本人であること等を確認させていただいたうえで、遅滞なくお答えします。

5. 個人情報等の安全管理について

当金庫は、お客様の個人情報等の漏えい、滅失、または毀損防止その他の個人情報等の適切な管理のために必要な措置を講じます。

顧客保護等管理方針

1. 当金庫は、お客さまの利益の保護や利便性の向上を図るため、法令やルールを守り、社会規範に則り、誠実かつ公正な業務運営を営むよう努めてまいります。
2. 当金庫は、お客さまへの説明を要する取引や商品について、そのご理解やご経験・ご資産の状況等に応じた適正な情報提供と商品説明を行います。
3. 当金庫は、お客さまからのご相談や苦情については、真摯な姿勢で適切かつ十分に対応し、お客さまのご理解と信頼を得られるよう努め、お客さまの視点に立った業務のあり方を検討し改善に努めます。
4. 当金庫は、お客さまに関する情報を法令等に従って適切に取得し、正確に保つよう努めるとともに、不正なアクセスや流出等を防止するため必要かつ適切な措置を講じてまいります。
5. 当金庫は、お客さまとの取引に関連して当金庫が行う業務を外部業者に委託する場合は、その業務を適切に遂行できる能力を有する者に委託先を限定するとともに、お客さまの情報の管理やお客さまへの対応が適切に行われるよう努めてまいります。

※本方針の「お客さま」とは、「当金庫をご利用されている方および今後取引を検討されている方」を意味します。

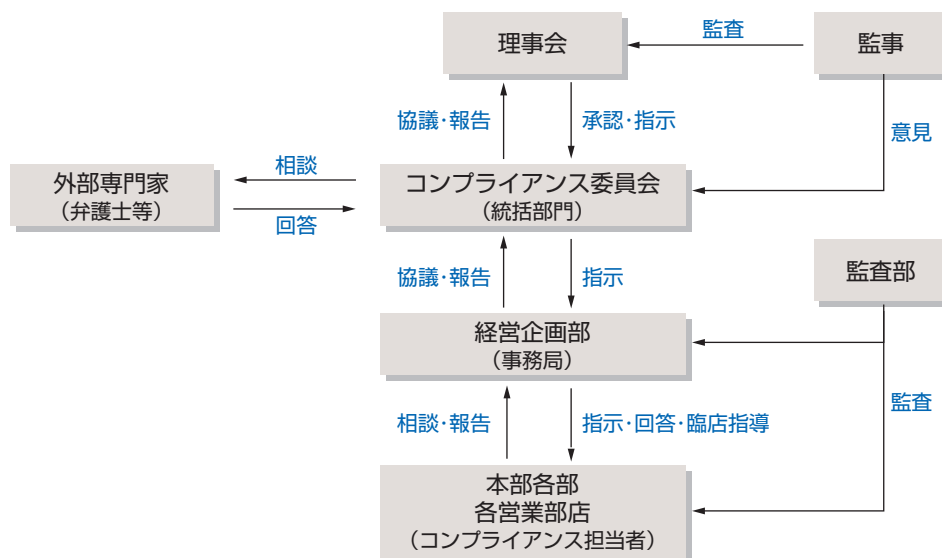
※本方針の「取引」とは、「与信取引(貸付契約及びこれに伴う担保・保証契約)、預金等の受入れ、商品の販売、仲介、募集等のお客さまと当金庫との間で行われるすべての取引」を意味します。

● 法令遵守への対応

法令遵守の基本的な考え方・コンプライアンス要綱

- 信用金庫の社会的使命と公共性の自覚と責任
- 質の高い金融等サービスの提供と地域社会発展への貢献
- 法令やルールの厳格な遵守
- 地域社会とのコミュニケーション
- 従業員の人権の尊重等
- 環境問題への取組み
- 社会貢献活動への取組み
- 反社会的勢力との関係遮断

*コンプライアンス体制



反社会的勢力に対する基本方針

私どもしまね信用金庫は、社会の秩序や安全に脅威を与え、健全な経済・社会の発展を妨げる反社会的勢力との関係を遮断するため、以下のとおり「反社会的勢力に対する基本方針」を定め、これを遵守します。

1. 当金庫は、反社会的勢力との取引を含めた関係を遮断し、不当要求に対しては断固として拒絶します。
2. 当金庫は、反社会的勢力による不当要求に対し、職員の安全を確保しつつ組織として対応し、迅速な問題解決に努めます。
3. 当金庫は、反社会的勢力に対して資金提供、不適切・異例な取引および便宜供与は行いません。
4. 当金庫は、反社会的勢力による不当要求に備えて、平素から警察、暴力追放運動推進センター、弁護士などの外部専門機関と緊密な連携関係を構築します。
5. 当金庫は、反社会的勢力による不当要求に対しては、民事と刑事の両面から法的対抗措置を講じる等、断固たる態度で対応します。

利益相反管理方針の概要

当金庫は、信用金庫法および金融商品取引法等を踏まえ、お客さまとの取引にあたり、本方針および当金庫が定める庫内規則に基づき、お客さまの利益が不当に害されるおそれのある取引を適切に管理（以下「利益相反管理」といいます。）し、もってお客さまの利益を保護するとともに、お客さまからの信頼を向上させるため、次の事項を遵守いたします。

1. 当金庫は、当金庫がお客さまと行う取引を対象として利益相反管理を行います。
2. 当金庫は、以下に定める取引を利益相反管理の対象とします。
 - (1) 次に掲げる取引のうち、お客さまの利益が不当に害されるおそれのある取引
 - ①当金庫等が契約等に基づく関係を有するお客さまと行う取引
 - ②当金庫等が契約等に基づく関係を有するお客さまと対立または競合する相手と行う取引
 - ③当金庫等が契約等に基づく関係を有するお客さまから得た情報を不当に利用して行う取引
 - (2) ①から③のほかお客さまの利益が不当に害されるおそれのある取引
3. 当金庫は、利益相反管理の対象となる取引について、次に掲げる方法その他の方法を選択し、またこれらを組み合わせることにより管理します。
 - ①対象取引を行う部門とお客さまとの取引を行う部門を分離する方法
 - ②対象取引またはお客さまとの取引の条件または方法を変更する方法
 - ③対象取引またはお客さまとの取引を中止する方法
 - ④対象取引に伴い、お客さまの利益が不当に害されるおそれがあることについて、お客さまに適切に開示する方法
4. 当金庫は、営業部門から独立した管理部署の設置および責任者の配置を行い、利益相反のおそれのある取引の特定および利益相反管理を一元的に行います。
また、当金庫は、利益相反管理について定められた法令および庫内規則等を遵守するため、役職員等を対象に教育・研修等を行います。
5. 当金庫は、利益相反管理態勢の適切性および有効性について定期的に検証します。

金融商品に係る勧誘方針

当金庫は、「金融商品の販売等に関する法律」に基づき、金融商品の販売等に際しては、次の事項を遵守し、勧誘の適正の確保を図ることとします。

1. 当金庫は、お客様の知識、経験、財産の状況及び当該金融商品の販売に係る契約を締結する目的に照らして、適正な情報の提供と商品説明をいたします。
2. 金融商品の選択・購入は、お客様ご自身の判断によってお決めいただきます。その際、当金庫は、お客様に適正な判断をしていただくために、当該金融商品の重要事項について説明をいたします。
3. 当金庫は、誠実・公正な勧誘を心掛け、お客様に対し事実と異なる説明をしたり、誤解を招くことのないよう、研修等を通じて役職員の知識の向上に努めます。
4. 当金庫は、お客様にとって不都合な時間帯や迷惑な場所での勧誘は行いません。
5. 金融商品の販売等に係る勧誘についてご意見やお気づきの点等がございましたら、お近くの窓口までお問い合わせください。

主要な事業の内容

● 業務内容のご紹介

協同組織の地域金融機関である“しまね信用金庫”は、地域の中小企業や個人の皆様に対する円滑な金融、情報サービスを提供するため、小口多数取引に徹した事業活動をきめ細やかに展開しています。

また、多様化する地域の皆様のニーズにお応えすべく、商品性・サービス内容の充実に努めるとともに、ITを活用した金融サービスとしてメディアバンキング（インターネットバンキング、モバイルバンキング）により金融チャネルの多様化やライフスタイルの変化に対応しています。

● 預金業務

当金庫では、豊富な預金商品を用意し、地域の皆様方の資金づくりのお手伝いをしています。

お客様のニーズにお応えするため、退職金専用金利上乘せ定期預金「しましんセカンドステージ」や「祝 松江城天守国宝記念定期預金」、「島根サノオマジック応援定期預金」などを取り扱うなど新商品の開発やサービスの充実に努力しています。



● 融資業務

当金庫では、地域の皆様の資金ニーズに幅広くお応えできるよう、小口多数取引に徹するとともに、当金庫ならではの数多くの商品、サービスをご用意しています。

中小企業の皆様の資金ニーズにお応えするよう、一般のご融資はもとより、県、市町村の有利な「各種制度融資」、担保・第三者保証人に頼らない企業活性化支援資金「リレーション“絆”」、各商工会との提携商品である「しましん企業活性化支援資金リレーション“絆”Ⅱ」、農業経営に必要な資金にご利用頂ける「しましんアグリローン（日本政策金融公庫CDS付）」、外部機関との連携による創業者支援資金「やらこい!」、太陽光発電設備設置資金「ソーラーえ〜な」など、低利で良質な事業資金を用意しています。

また、住宅資金として3年・5年・10年・15年の「固定金利期間選択型」、お借入れ時に返済終了までの返済額が確定し計画的な返済を行うことができる「全期間固定金利型」、当初～10年目の金利と11年目以降の金利が変動する全期間固定金利の「2段階固定金利型」のいずれも選択いただけ、最長35年までご利用いただける住宅ローン「住まいのいちばんネクストV」をはじめとする住宅ローン、自動車または自動二輪の購入資金等にご利用いただける「しましんDanDanカーローン」、事業資金を含むさまざまな資金使途に対応できる個人向けローン「しましんサポートローン」、金融機関、信販・クレジット、消費者金融等の借換え資金としてご利用いただける「おまとめローン「助っ人くん」」、大学、専修学校の受験費用や生活費を含めた就学中の教育資金等にご利用いただける教育ローン「出発Ⅱ」、便利にご利用いただけるカードローン「きゃっする500」「レディースきゃっする」「しましんカードローン」「スーパーベスト」、女性の方に自由に使っていただける個人ローン「レディースパートナー100」など健康で文化的な生活を営むために必要な各種資金の提供を通じて、地域の皆様の豊かな家庭生活実現のお役に立つべく努力しています。また、プロパー商品では「レディースGO」、「しましん笑快大使」を取扱っており、保証人・保証料不要として、よりお客様にご利用いただき易くしております。



● 為替業務

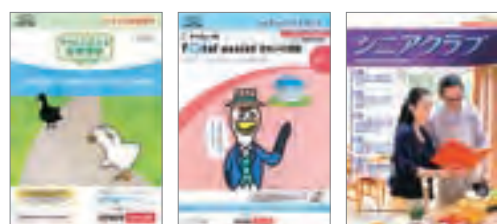
当金庫では、全国の金融機関への送金、振込、代金取立等のお取り扱いを行っており、数多くのお客様にご利用いただいています。

当金庫の各店舗は、全国信用金庫データ通信システムによる為替網を通じて、全国の信用金庫はもとより銀行等の民間金融機関とオンラインで結ばれており、迅速かつ正確に取り扱っています。

外国為替の取り扱いに関しましては、外貨両替、外国送金、旅行小切手（T/C）の買取等のサービスを、信金中央金庫等の機能も利用する形で皆様にご利用いただいています。

● その他の業務

当金庫では、個人向け国債の販売等の登録金融機関業務や、日本政策金融公庫をはじめとする政府系金融機関の融資を取り扱っております。また、個人年金や学資保険、終身保険、医療保険、がん保険、標準傷害保険、年金受給者専用団体傷害保険、住宅関連長期火災保険、住宅関連の債務返済支援保険などの窓口販売業務、でんさいサービス、マルチペイメントネットワークの取扱いや外貨宅配サービス及びスポーツ振興くじ（toto）の払戻し業務等、お客様のニーズに合わせ積極的に対応させていただいております。



預金業務

種類	特色	期間	預入金額	
普通預金	しましんの全営業店で出し入れでき、大変便利です。	お出し入れ自由	1円以上	
決済用普通預金 (無利息型)	全額が預金保険制度で保護されます。現在ご利用中の普通預金から変更することも可能です(口座番号はそのまま、給与・年金の受取や公共料金等自動振替の変更手続きも必要ありません)。	お出し入れ自由	1円以上	
総合口座	お利息の有利な定期預金により〈貯める〉、給与・年金等の自動振込により〈受け取る〉、公共料金等を〈支払う〉、自動融資により〈借りる〉という4つの機能を1冊の通帳にセットした大変便利な口座です。	—	—	
普通預金	給与・年金等のお受け取り、公共料金等の自動支払など暮らしのおサイフ代わりにご利用下さい。	お出し入れ自由	1円以上	
定期預金	大口定期、スーパー定期、期日指定定期預金、変動金利定期預金のお取り扱いができます。また、お書き替えの手間がかからない自動継続扱いができますので、大変便利です。	【大口定期預金】 1・3・6ヶ月 1・2・3・4・5年	1千万円以上	
		【スーパー定期預金】 1・3・6ヶ月 1・2・3・4・5年	1,000円以上	
		【期日指定定期預金】 最長3年(据置期間1年)	1,000円以上 300万円未満	
		【変動金利定期預金】 1年、2年、3年	1,000円以上	
自動融資	大口定期、スーパー定期、期日指定定期預金、変動金利定期預金のお預け入れ額の90%・最高200万円まで自動融資がご利用いただけます。	—	—	
貯蓄預金	いつでも出し入れでき、普通預金より高利回りです。個人の方だけご利用になれ、利率は残高が多くなればなるほど有利となります。但し、給与・年金等の受取口座や公共料金等の自動支払はできません。なお、基準残高を下回った場合は普通預金利率となります。	—	1円以上	
当座預金	小切手、手形をご利用いただける預金です。信用ある「しましん」の小切手は安全・便利でお客様の信用にもプラスになります。	お出し入れ自由	1円以上	
通知預金	7日以上お預けいただき、お引き出しの2日前にご通知していただく預金で、大口の余裕資金を短期間に運用いただくのに有利な預金です。	7日以上	1,000円以上	
納税準備預金	納税資金専用の預金で、お利息は普通預金より有利で、かつ非課税の特典があります。	お引き出しは納税時	1円以上	
大口定期	金融市場の金利動向等を考慮して金利が設定される自由金利型定期預金です。お書き替えの手間がかからない便利な自動継続扱いもございます。	1ヶ月以上5年以内	1千万円以上	
スーパー定期	最低お預け入れ金額が1,000円と、幅広いお客様にご利用いただける自由金利型定期預金です。お書き替えの手間がかからない便利な自動継続扱いもございます。	1ヶ月以上5年以内	1,000円以上	
期日指定定期預金	1年複利で増える、お利息の有利な自由金利型定期預金です。お預け入れ期間は最長3年ですが、据置期間1年経過後は、いつでも必要な額だけお引き出しができます。お書き替えの手間がかからない便利な自動継続扱いもございます。	最長3年 (据置期間1年)	1,000円以上 300万円未満	
変動金利定期預金	預入期間中6ヶ月ごとのサイクルで利率が見直しされる変動金利の定期預金です。お書き替えの手間がかからない便利な自動継続扱いもございます。	定型方式(1年・2年・3年) と満期日指定方式(1年 超3年未満)があります。	1,000円以上	
定期積金	旅行、結婚、教育等豊かなプランの実現のため、毎月一定額を積み立て、大きく貯める預金で、目標の期間にまとまった金額がお手許に入ります。計画貯蓄には最も便利な預金です。	6ヶ月以上5年以内	1,000円以上	
財形預金	財形期日指定定期預金	勤労者の生活設計のため給与・賞与から天引きし、定期的にお預けいただく預金です。	3年以上	1,000円以上
	財形年金預金	勤労者が退職後の豊かな生活を送るための財産づくりに最適で、財形住宅預金と合算して550万円までの非課税貯蓄の特典がご利用いただける大変有利な預金です。	積立期間 5年以上 据置期間 6ヶ月～5年以内 受取期間 5年～20年以内	1,000円以上
	財形住宅預金	勤労者が住宅の取得・増改築のための資金を積み立てることを目的とした預金で、財形年金預金と合算して550万円までの非課税貯蓄の特典がご利用いただける大変有利な預金です。	積立期間 5年以上	1,000円以上
積立定期預金	ご都合のよい時に1,000円以上いくらでもご自由に積み立てられますので、お気軽に貯蓄が楽しめます。	積立期間の定めのない 自由型と満期日を設定 するタイプがあります。	1,000円以上	
金利上乘せ定期預金「健勝」	当金庫で公的年金をお受け取りの方、お受け取りを指定された方、または当金庫で年金のお受け取りをご予約いただいた方に、対象であるスーパー定期に金利を上乘せする定期預金です。	1ヶ月以上5年以内	1,000円以上 500万円以内	
退職金専用定期預金「セカンドステージ」	当金庫に退職金をお預け入れいただいた方に、金利を上乘せする定期預金です。さらに、300万円以上お預け入れの方には、粗品を進呈致します。	1年・3年	100万円以上	
ゆうゆう定期	所定の年金・手当等を当金庫でお受け取りの方を対象に、スーパー定期の1年・2年ものの金利を優遇する定期預金です。	1年・2年	300万円以内	

誕生月限定「金利上乗せ定期預金」 (年金受給者のみ)	当金庫で公的年金をお受け取りの方で、預入日が誕生日の属する月である場合に、スーパー定期に金利を上乗せする定期預金です。	1ヶ月以上5年以内	1,000円以上 100万円以内
相続定期預金	個人(個人事業主の方を含む)の方で、金融機関(当金庫以外の金融機関も含みませ)での相続手続き完了後、1年以内に相続により取得した金額を原資としてお預けいただける場合に、スーパー定期・大口定期預金金利を上乗せする定期預金です。	1年、3年、5年	1,000円以上

(平成28年6月30日現在)

■ 融資業務

《事業者向けローン》

種類	特色	融資金額	期間
一般のご融資	手形割引… 一般商業手形の割引を致します。 手形貸付… 仕入資金等短期運転資金をご融資致します。 証書貸付… 設備資金等長期の資金需要にお応え致します。 当座貸越… 一定限度額内で時期、金額を問わずお借入・ご返済ができます。	—	—
サポートローン	個人消費資金、他社ローン借換資金、また事業性資金等、ご自由にご利用いただけます。(株)クレディセゾンのご保証をお受けいただけます。	10万円以上300万円以内	6ヶ月以上 7年以内
事業者カードローン	信用保証協会の保証により、必要な資金をいつでも簡単なお手続きでご利用いただける大変便利なローンです。	2,000万円以内	2年以内 更新も可能です
各種制度融資	鳥根県・各市町村の有利な制度融資をお取り扱い致しております。 制度融資は是非「しましん」にご用命下さい。	—	—
代理業務	信金中央金庫、日本政策金融公庫、住宅金融支援機構のご融資のお取り扱い「しましん」の窓口をご利用下さい。	—	—
しましん創業者支援資金「やらこい!」	創業～成長段階の支援、新たな事業展開・課題解決のための支援、経営改善支援等、様々な側面からのサポートが可能です。	500万円以内	証書貸付：原則7年以内 手形貸付：1年以内
しましん企業活性化支援資金「リレーション」 ^絆	担保・第三者保証人を必要としないローンです。	500万円以内	5年以内
しましん企業活性化支援資金「リレーション」 ^{絆II}	当金庫と提携先商工団体との提携商品です。本商品は担保・第三者保証人を必要としないローンです。	500万円以内	運転資金：5年以内 設備資金：7年以内
しましん太陽光発電設備設置支援資金「ソーラーえ〜な」	太陽光発電設備導入資金にご利用いただけます。 当庫での収支シミュレーションも可能ですのでお気軽にご相談ください。	3,000万円以内	20年以内
しましんアグリローン	農業の経営に必要な資金にご利用いただけます。 当金庫と日本政策金融公庫との提携商品です。	5,000万円以内	1年以上7年以内

(平成28年6月30日現在)

《消費者ローン》

種類	特色	融資金額	期間
住宅ローン	マイホームのご購入や新築等、豊かな暮らしの実現にお役に立つ「しましん」の住宅ローンをご利用下さい。なお、固定金利期間選択型、変動金利型、全期間固定金利型、2段階固定金利型がございます。	1億円以内	35年以内
リフォームプラン	お住まいの設備及び家屋の修繕費用にご利用いただけます。 一般社団法人しんさん保証基金の保証をお受けいただけます。	1,000万円以内	15年以内
個人ローン	健康で文化的な生活を営むために必要な資金としてご利用いただけます。 一般社団法人しんさん保証基金の保証をお受けいただけます。	500万円以内	10年以内
カーライフプラン	乗用車の購入、残債借換資金、車検費用、免許取得費用等にご利用いただけます。 一般社団法人しんさん保証基金の保証をお受けいただけます。	500万円以内	10年以内
カーライフプラン・エコ	エコカーの購入等の資金にご利用いただけます。 一般社団法人しんさん保証基金の保証をお受けいただけます。	500万円以内	10年以内
マイカーローン	乗用車・自動二輪車の購入、車検費用、免許取得費用等にご利用いただけます。 山陰信販(株)の保証をお受けいただけます。	10万円以上 300万円以内	7年以内
教育プラン	大学・専修学校等の受験費用や就学中の教育資金等のお支払いにご利用いただけます。 一般社団法人しんさん保証基金の保証をお受けいただけます。	500万円以内	10年以内
教育ローン「出発II」	大学・専修学校等の受験費用や就学中の教育資金等のお支払いにご利用いただけます。 山陰信販(株)の保証をお受けいただけます。	100万円以上 500万円以内 ※100万円単位	所定の就学期間 十分割返済期間 ^(※) ※卒業後10年以内
子育て応援プラン	出産・子育て・小学校入学準備に必要な資金にご利用いただけます。 一般社団法人しんさん保証基金の保証をお受けいただけます。	100万円以内	10年以内
カードローン	健康で文化的な生活を営むために必要な資金としてご利用いただけます。 一般社団法人しんさん保証基金の保証をお受けいただけます。	極度額50万円以内	2年 更新も可能です

カードローン 「きゃっする500」	ご自由(事業性資金除く)にご利用いただけます。信金ギランティ(株)の保証をお受けいただけます。	極度額500万円以内	3年 更新も可能です
カードローン 「レディースきゃっする」	ご自由(事業性資金除く)にご利用いただけます。信金ギランティ(株)の保証をお受けいただけます。なお、対象を女性の方に限定しています。	50万円以内	3年 更新も可能です
カードローン 「スーパーベスト」	ご自由(事業性資金除く)にご利用いただけます。(株)オリエントコーポレーションの保証をお受けいただけます。	極度額300万円以内	3年 更新も可能です
サポートローン	個人消費資金、他社ローン借換資金、また事業性資金等、ご自由にご利用いただけます。(株)クレディセゾンの保証をお受けいただけます。	10万円以上 300万円以内	6ヶ月以上 7年以内
フリーローン	健康で文化的な生活を営むために必要な資金としてご利用いただけます。山陰信販(株)の保証をお受けいただけます。	10万円以上 300万円以内	6ヶ月以上 7年以内
福祉プラン	在宅介護を要する高齢者や心身障害者の方の日常生活上の便宜を図るための機器の購入・設置費用としてご利用いただけます。一般社団法人しんきん保証基金の保証をお受けいただけます。	10万円以上 500万円以内	10年以内
D a n D a n カーローン	家用自動車や自家用二輪の購入資金ならびに、他社ローン借換資金にご利用いただけ、保証人・保証料はともに不要のローンです。	10万円以上 500万円以内	6ヶ月以上 10年以内
おまとめローン 「助っ人くん」	金融機関、信販・クレジット、消費者金融等の借換え資金としてご利用いただけます。山陰信販(株)の保証をお受けいただけます。	300万円以内	15年以内 200万円以内の場合 10年以内
しましん 「レディーGO」	ご自由(借換資金・事業性資金除く)にご利用いただけます。なお、対象を女性の方に限定しています。	10万円以上 200万円以内	5年以内
しましんレディースローン 「レディース パートナー100」	【目的別プラン】資金使途が確認書類により確認が取れる資金(借換資金・事業性資金除く)にご利用いただけます。山陰信販(株)の保証をお受けいただけます。なお、対象を女性の方に限定しています。 ----- 【フリープラン】ご自由(事業性資金除く)にご利用いただけます。山陰信販(株)の保証をお受けいただけます。なお、対象を女性の方に限定しています。	10万円以上 100万円以内 ※専業主婦の方の場合は、 30万円以内とします。	5年以内
シニアライフローン	当金庫で公的年金を受け取っておられる満60歳以上の方を対象としたローンです。健康で文化的な生活を営むために必要な資金としてご利用いただけます。一般社団法人しんきん保証基金の保証をお受けいただけます。	100万円以内	10年以内

※当金庫の商品には、お客様の予想に反して金利が上下したり、中途のご解約により金利が変更になったりする商品もございます。ご利用に当りましては、
当金庫の窓口や渉外係にこれらの商品に関するご質問を何なりとお申し出下さい。お客様にご納得いただけるまで説明させていただきます。(平成28年6月30日現在)

為替・外貨の取扱い業務

種類	内容
内 国 為 替	送金・振込 当金庫の本支店はもちろん、日本全国どこでも迅速・正確にご送金・お振込をいたします。また、ATM(現金自動預払機)でのお振込(キャッシュカードのみ)もお取扱できます。 代金取立 手形・小切手などを取立てて、ご指定の口座にご入金いたします。
外 国 為 替	外国送金等を信金中央金庫を通じて取扱っております。
外 貨 両 替	主要外国通貨の両替をいたします。
外 貨 宅 配 サ ー ビ ス	海外へご旅行や出張されるお客様のご自宅、ご勤務先などのご指定場所に世界36通貨の「外国紙幣」を代金引換の宅配便でお届けするサービスです。本サービスは、三井住友銀行が提供するサービスとなっております。

(平成28年6月30日現在)

証券業務

種類	内容
国 債	個人向け国債等の販売を行っています。

(平成28年6月30日現在)

保険商品の窓口販売業務

種類	内容
損 害 保 険 商 品	住宅ローンをご利用いただく方に対して「火災保険」および「債務返済支援保険」をご案内しております。また、ケガに備える手段として「標準傷害保険」ならびに当金庫で年金をお受取りの方に「普通傷害保険」をご案内しております。
生 命 保 険 商 品	ゆとりあるセカンドライフへの備えとして「定額個人年金保険」を、万への備えとして「終身保険」をご案内しております。また、病気やケガに備える手段として「医療保険」「がん保険」をご案内しております。

(平成28年6月30日現在)

種類	内容
でんさいサービス	中小企業の資金調達の円滑化を図るための新しい支払手段です。インターネット（PC）等を通じて、電子記録債権を記録・管理する電子債権記録機関（でんさいネット）の記録原簿へ電子記録をすることで、安心・簡易・迅速に、支払いや譲渡等を行うことができるサービスです。
A T M 振 込	お振り込みが、当金庫のキャッシュカード1枚ですばやくできます。振込依頼書への記入の手間もいらず、窓口扱いよりも手数料がお得です。
為 替 自 動 振 込	毎月決まった先への振り込みを自動的に行います。仕送り、月謝、家賃、地代などのお振り込みに便利です。
夜 間 金 庫	売上代金などを金庫の営業時間外でも安全にお預かりします。
キ ャ ッ シ ン グ	JCB・VISAをはじめ金融機関系・流通信販系などのクレジットカードによるキャッシングサービスを行っております。
税 務 相 談	毎月第2・4木曜日に税理士による税金関係の相談会を無料で実施しております。
スポーツ振興くじ（toto）	スポーツ振興くじ（toto）の当せん金が、本店・母衣町・出雲・安来・宍道支店の窓口でお受け取りになれます。
株 式 の 払 い 込 み	会社設立や増資の株式払込金の受け入れと、保管金の証明書を発行しております。
両 替	お手持ちの円を、外国通貨へ、また外国通貨を円に両替するお取り扱いをしております。
テレフォンバンキング	会社やご自宅の一般電話、携帯電話、PHSからコールセンターへお電話いただくだけで、残高照会や振込・振替ができるサービスです。
マルチペイメントネットワーク	公共料金や税金、航空券やクレジット、インターネットショッピングなど様々な料金を、店頭まで足を運ばなくても、パソコンから支払いを済ませることができるサービスです。
「LINE」による 情報配信サービス	スマートフォンアプリ「LINE」における当金庫の「LINE@」アカウントに友だち登録をいただいた方に、キャンペーン情報や商品情報を配信するサービスです。

（平成28年6月30日現在）

各種手数料一覧

1. 振込手数料 (1件につき)

	振込金額	窓口振込 ^(※)		ATM		自動振込	
		会 員	非会員	会 員	非会員	会 員	非会員
当金庫宛	同一店内	3万円未満 3万円以上	無 料 無 料	108円 324円	無 料 無 料	無 料 無 料	54円 108円
	他店宛	3万円未満 3万円以上	216円 432円		無 料 無 料	54円 216円	108円 324円
他行宛	電信扱い	3万円未満 3万円以上	540円 756円	324円 540円	432円 648円	324円 540円	432円 648円
	文書扱い	3万円未満 3万円以上	540円 756円	— —	— —	— —	— —

※視覚障がい、またはその他の障がいをお持ちでATMのご利用が困難なお客様の場合、預金口座からの振込に限りATM振込手数料と同額といたします。

2. メディアバンキング

項 目	基本料 (月額)	振込先	振込金額	手数料 (1件につき)	
ホームバンキング テレフォンバンキング	照会のみ 無料 個人 108円 法人 3,240円	当金庫宛	同一店内	3万円未満 3万円以上	無 料 無 料
			他店宛	3万円未満 3万円以上	108円 324円
		他行宛	3万円未満 3万円以上	432円 648円	
			3万円未満 3万円以上	432円 648円	
ファームバンキング	法人 3,240円	当金庫宛	同一店内	3万円未満 3万円以上	無 料 無 料
			他店宛	3万円未満 3万円以上	108円 324円
		他行宛	3万円未満 3万円以上	432円 648円	
			3万円未満 3万円以上	432円 648円	
ファックス振込	個人 108円 法人 3,240円	当金庫宛	同一店内	3万円未満 3万円以上	無 料 無 料
			他店宛	3万円未満 3万円以上	108円 324円
		他行宛	3万円未満 3万円以上	432円 648円	
			3万円未満 3万円以上	432円 648円	
ア ン サ ー	通知のみ：1,080円 照会のみ：無 料 通知・照会：1,080円				
インターネットバンキング	法人 口座振替 無料 オンライン取引 1,080円 ファイル伝送 1,080円 全取引 2,160円	当金庫宛	同一店内	3万円未満 3万円以上	無 料 無 料
			他店宛	3万円未満 3万円以上	108円 216円
		他行宛	3万円未満 3万円以上	324円 540円	
			3万円未満 3万円以上	324円 540円	
モバイルバンキング	照会のみ 無 料 資金移動 108円	当金庫宛	同一店内	3万円未満 3万円以上	無 料 無 料
			他店宛	3万円未満 3万円以上	108円 324円
		他行宛	3万円未満 3万円以上	432円 648円	
			3万円未満 3万円以上	432円 648円	

※オンライン取引 …… 残高・取引履歴照会、資金移動 ファイル伝送 …… 総合振込、給与振込、賞与振込

3. 代金取立手数料 (1件につき)

区 分	取立先	種 類	普通扱い
松江手形 交換所内	同一店内宛	手形・小切手	無 料
	当金庫他店宛	手形 [※]	216円
	他金融機関宛	小切手	無 料
上記以外	他金融機関	手形・小切手 [※]	648円

※但し、上記金額を超える実費を要する場合にはその実費を申受けます。

4. 送金手数料 (1件につき)

	普通扱い
当金庫本支店宛 [※]	432円
他 行 宛 [※]	648円

※但し、上記金額を超える実費を要する場合にはその実費を申受けます。

5. その他の手数料 (1件につき)

送金・振込組戻料	864円	
取立手形組戻料 ^{※1}	864円	
取立手形店頭呈示料 ^{※1}	864円	
不渡手形返却料 ^{※1}	864円	
カード・通帳・証書再発行手数料 ^{※2}	1,080円	
自己宛小切手発行手数料	540円	
夜間金庫利用手数料 (月額)	3,240円	
残高証明書発行手数料	機械処理	324円
	手書処理	1,080円
個人情報開示手数料	540円	
小切手帳発行手数料 (50枚)	648円	
約束手形発行手数料 (25枚)	432円	

※1
上記金額を超える実費を
要する場合にはその実費を
申受けます。

(注) 残高証明書発行手数料は、
預金・融資等それぞれに必要
となり、また証明書発行回数
毎に必要となります。

※2
毀損・汚損による再発行時
は不要です。

6. 当金庫CD・ATMの利用手数料

取扱日	取引	ご利用時間	当金庫カード (※)	その他金融機関カード				
				その他 信用金庫	山陰合同銀行	第二地方銀行 信用組合・労働金庫	他の金融機関	ゆうちょ銀行
平日	入金	8:00 ~ 8:45	無料	無料	—	108円	—	216円
		8:45 ~ 18:00	無料	無料	—	108円	—	108円
		18:00 ~ 21:00	無料	108円	—	216円	—	216円
	出金	8:00 ~ 8:45	無料	無料	無料	108円	108円	216円
		8:45 ~ 18:00	無料	無料	無料	108円	108円	108円
		18:00 ~ 21:00	108円	108円	108円	216円	216円	216円
土曜日	入金	8:45 ~ 9:00	無料	無料	—	108円	—	216円
		9:00 ~ 14:00	無料	無料	—	108円	—	108円
		14:00 ~ 21:00	無料	108円	—	216円	—	216円
	出金	8:45 ~ 9:00	無料	無料	無料	108円	108円	216円
		9:00 ~ 14:00	無料	無料	無料	108円	108円	108円
		14:00 ~ 21:00	108円	108円	108円	216円	216円	216円
日曜・祝日	入金	8:45 ~ 20:00	無料	108円	—	216円	—	216円
	出金	8:45 ~ 20:00	108円	108円	108円	216円	216円	216円

※しましんDanDanカードをご契約の方、当金庫で3万円の給与振込をご指定の方は終日無料となります。詳しくは、お取引店舗までお問い合わせ下さい。

7. 融資関係手数料

事業者カードローン口座維持手数料	〔期間〕	6か月以下	2,700円	
		6か月超1年以下	5,400円	
		1年超	10,800円	
融資証明書発行手数料(1枚)			5,400円	
不動産担保取扱手数料(住宅ローン除く)	〔設定額〕	1千万円未満	10,800円	
		1千万円以上5千万円未満	21,600円	
		5千万円以上	32,400円	
不動産担保変更手数料(住宅ローン除く)			10,800円	
不動産担保解除手数料(住宅ローン除く)			5,400円	
委任状再発行手数料			5,400円	
条件変更手数料		返済条件変更	3,240円	
		任意繰上返済※	3,240円	
		保証人変更	3,240円	
		債務引受	5,400円	
住宅ローン取扱手数料	〔融資金額〕	3千万円以上	32,400円	
		2千万円以上3千万円未満	21,600円	
		2千万円未満	10,800円	
住宅ローン 約定変更 手数料 (※)	固定金利終了後、再度固定金利を選択		5,400円	
	変動金利適用中に固定金利へ変更		5,400円	
	変動金利型		5,400円	
	一部繰上返済	2段階固定金利型・ 固定金利期間選択型		5,400円
	全期間固定金利型	〔返済額〕	5百万円未満	54,000円
			5百万円以上	108,000円
全部繰上返済	〔返済額〕	5百万円未満	54,000円	
		5百万円以上	108,000円	
「フラット35」融資手数料		融資金額×2.16% (消費税含)		
アパートローン(全期間固定金利型) 繰上返済手数料	〔返済額〕	5百万円未満	54,000円	
		5百万円以上	108,000円	
公共工事金銭保証		保証書発行	1,080円	
		保証内容変更契約書発行	1,080円	

※繰上返済については、条件変更登録を伴わない場合は手数料が無料です。但し、全期間固定金利型の商品については条件変更登録の有無にかかわらず手数料をいただきます。詳しくはお取引店舗までお問合せ下さい。

(平成28年6月30日現在)

8. 両替手数料

枚数	金額
1枚～100枚	無料
101枚～200枚	108円
201枚～300枚	216円
301枚～400枚	324円
401枚～500枚	432円
501枚～600枚	540円
601枚～700枚	648円
701枚～800枚	756円
801枚～900枚	864円
901枚～1,000枚	972円
1,001枚～	1,080円

※両替手数料については、営業目的でかつ定例的な両替に限らせていただきます。また、汚損した現金及び記念硬貨の交換は無料です。
また、両替のお取扱い枚数は、お持込み枚数とお受取り枚数のいずれが多い方で判断させていただきます。

9. でんさいサービス利用手数料

手数料種別		利用手数料(月額)	
基本利用料		0円	

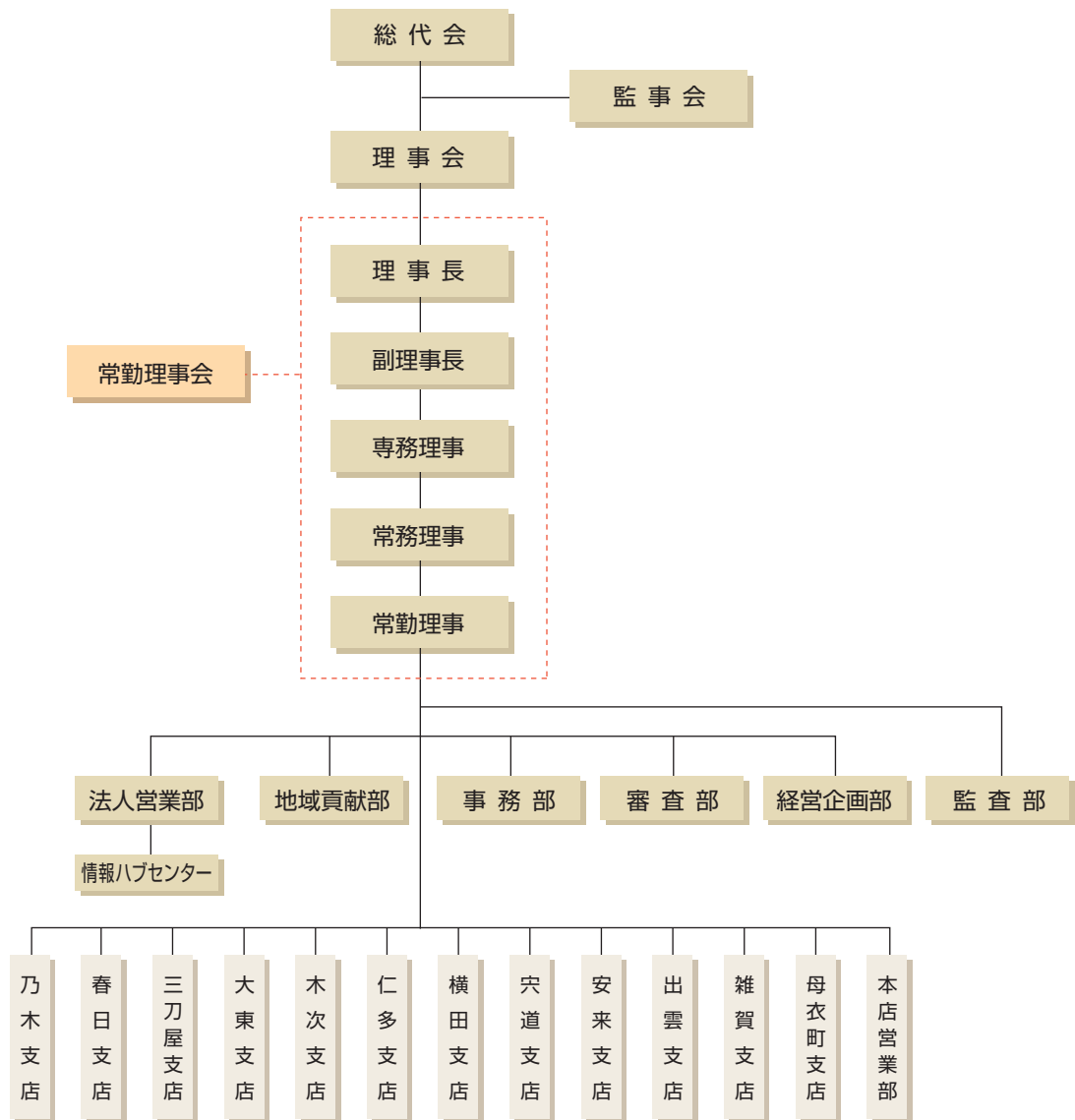
手数料種別		利用手数料(1件当たり)	
		パソコン	店頭受付
発生記録	債務者請求方式	324円	324円
	債権者請求方式	324円	324円
譲渡記録		324円	324円
分割譲渡記録		324円	324円
開示	通常開示	0円	216円
	特例開示	—	2,160円
	残高の開示(定例発行方式)	1,296円	1,296円
	残高の開示(都度発行方式)	—	3,240円
単独保証記録		324円	324円
変更記録	電子記録の日から起算して5営業日以内に行われる電子記録権利者による単独削除	0円	216円
	予約の取消	0円	216円
	発生記録以外の記録がされていない電子記録債権の変更記録請求の場合	324円	324円
	発生記録以外の記録がされている電子記録債権の変更記録請求の場合	—	1,080円
支払等記録(口座間送金決済以外)		324円	324円
支払不能情報照会		—	2,160円

※予め指定された決済口座から(複数ある場合には代表口座から)、当金庫所定の日に自動的に引落します。
ただし、特例開示など、一部サービスの利用手数料については決済口座からの自動引落しではなく、取引店でお支払いいただきます。
※利用手数料はお客様に事前に通知することなく変更する場合があります。
※取引内容により、上記利用手数料以外に当金庫所定の諸手数料および消費税をお支払いいただく場合があります。
※上記利用手数料には消費税等相当額を含みます。

(平成28年6月30日現在)

事業の組織

しまね信用金庫機構図



(平成28年7月1日現在)

役員一覧

理事長	代表理事	石川 茂夫	理事	安来 賢吉	(※1)	常勤監事	飯塚 章恭
常務理事	代表理事	藤原 俊樹	理事	三島 敏功	(※1)	監事	山下 裕國
常務理事	代表理事	福間 正道	理事	梅木 秀昭	(※1)	監事	古津 弘也
常勤理事		清水 浩志	理事	難波 信	(※1)		
常勤理事		和田守裕司					

(※1) 理事 安来賢吉、三島敏功、梅木秀昭、難波信は、信用金庫業界の「総代会の機能向上策等に関する業界申し合わせ」に基づく職員外理事です。

(※2) 監事 古津弘也は、信用金庫法第32条第5項に定める員外監事です。

(平成28年6月27日現在)

会計監査人の名称

有限責任監査法人トーマツ

(平成28年6月30日現在)

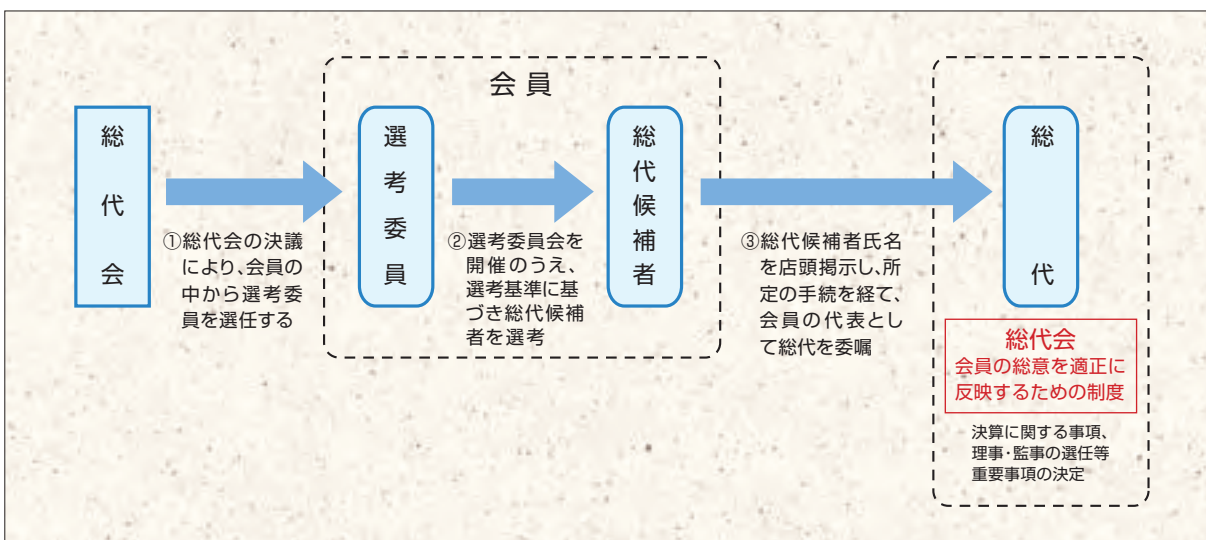
● 総代会制度

信用金庫は、会員同士の「相互信頼」と「互恵」の精神を基本理念に、会員1人ひとりの意見を最大の価値とする協同組織金融機関です。したがって、会員は出資口数に関係なく、1人1票の議決権を持ち、総会を通じて当金庫の経営に参加することとなります。しかし、当金庫では、会員数がたいへん多く、総会の開催は事実上不可能です。そこで、当金庫では、会員の総意を適正に反映し、充実した審議を確保するため、総会に代えて総代会制度を採用しております。

この総代会は、決算、取扱業務の決定、理事・監事の選任等の重要事項を決議する最高意思決定機関です。したがって、総代会は、総会と同様に、会員1人ひとりの意見が当金庫の経営に反映されるよう、総代構成のバランス等に配慮し、選任区域ごとに総代候補者を選考する選考委員会を設け、会員の中から適正な手続きにより選任された総代により運営されます。

さらに、当金庫では、日常の事業活動を通じて、総代や会員とのコミュニケーションを大切にし、さまざまな経営改善に取り組んでおります。

なお、総代会の運営に関するご意見やご要望につきましては、お近くの営業店までお寄せください。



● 総代任期・定数とその選任方法

(1) 総代の任期・定数

- ・総代の任期は3年です。
 - ・総代の定数は、90人以上120人以内で、会員数に応じて各選任区域ごとに定められています。
- なお、平成28年3月31日現在の総代数は97人で、会員数は10,104人です。

(2) 総代の選任方法

総代は、会員の代表として、会員の総意を当金庫の経営に反映する重要な役割を担っております。そこで、総代の選考は、総代候補者選考基準^(注)に基づき、次の3つの手続きを経て選任されます。

- ①総代会の決議により、会員の中から総代候補者選考委員を選任する。
- ②選考委員会を開催のうえ、総代候補者選考委員が総代候補者を選考する。
- ③上記②により選考された総代候補者を会員が信任する(異議があれば申し立てる)。

(注)総代候補者の選考基準

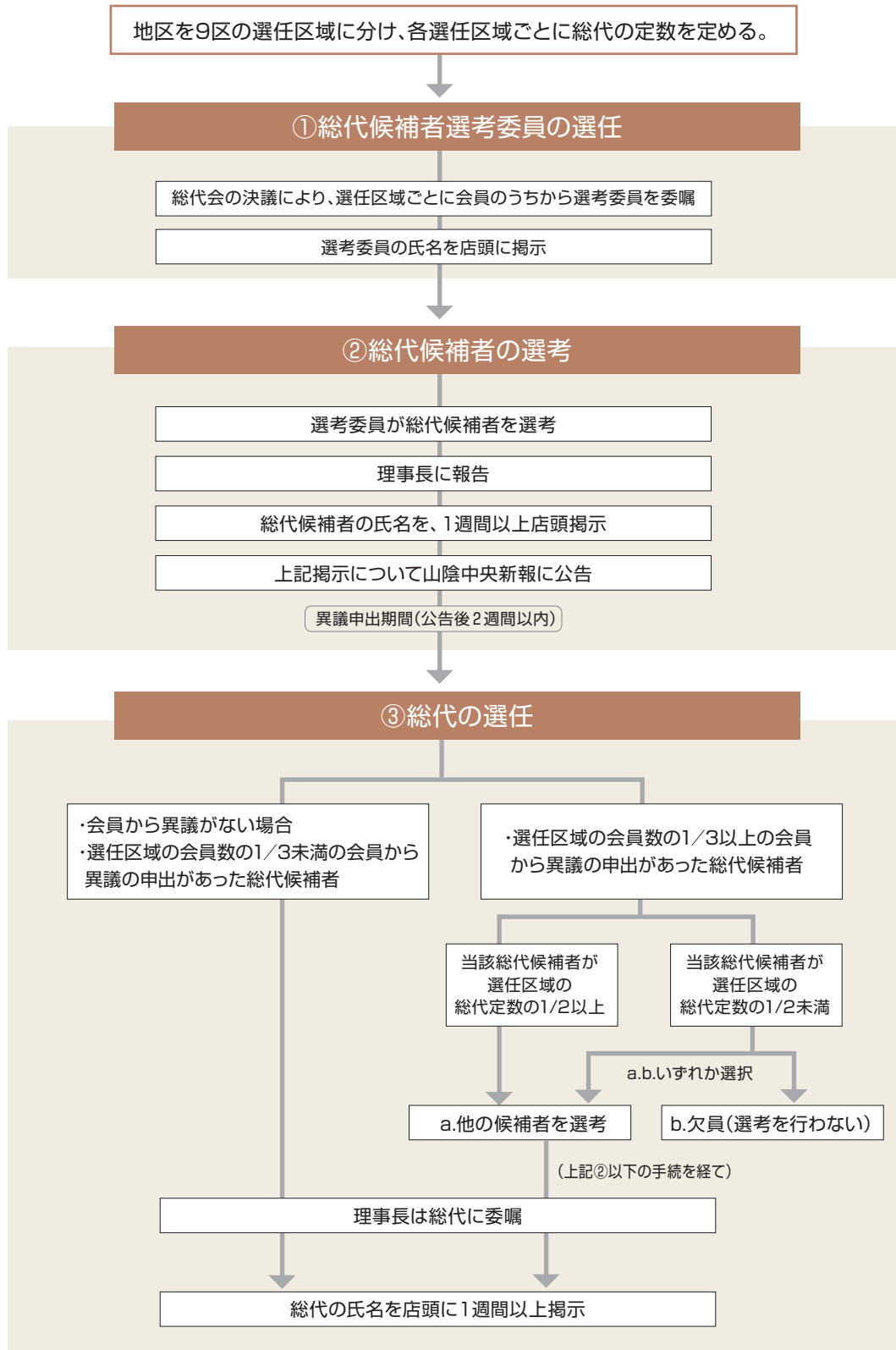
〈資格要件〉

総代候補者は当金庫の会員である方

〈適格要件〉

- ①総代としてふさわしい見識を有している方
- ②良識をもって正しい判断ができる方
- ③人格にすぐれ、金庫の理念・使命を十分理解している方
- ④その他選考委員が適格と認めた方

● 総代が選任されるまでの手続について



● 第45期通常総代会の決議事項

平成28年6月27日開催いたしました第45期通常総代会において、次の事項が付議され、報告並びに承認可決されました。

報告事項

第45期業務報告、貸借対照表および損益計算書の内容報告の件

決議事項

- 第1号議案 剰余金処分案承認の件
- 第2号議案 定款一部変更の件
- 第3号議案 総代候補者選考委員選任の件
- 第4号議案 理事選任の件
- 第5号議案 監事選任の件
- 第6号議案 退任役員に対し退職慰労金贈呈の件

● 総代の氏名等

選任区域	人数	氏名 (50音順・敬称略)
松江橋北地区	15	大下 覚⑦ 太田秀夫⑬ 金津任紀② 清原誉之⑪ 小瀧昇一⑥ 小山保広⑥ 永通烈志② 南目尚範⑬ 野津修一⑬ 原田瑞樹⑤ 福島久雄⑩ 古川義郎⑬ 松井裕幸③ 吉岡 実① 米田則雄⑤
松江橋南地区	23	安達盛二② 安達 亨⑥ 植尾佳功⑥ 大多和聡宏⑤ 川本喜紀④ 菅野 紘④ 古志勝俊⑤ 古志史彦③ 小松昭夫⑪ 坂田百合子⑤ 鷗鶴 順⑥ 庄司尚史② 高木秀人② 中林秀雄⑥ 錦織進一⑩ 平塚 治⑦ 福田 薫② 三成和男④ 宮廻康夫① 宮本健一① 山口研二⑥ 山本浩史⑪ 渡部彰夫④
出雲地区	10	阿川嘉明③ 大田和人③ 園山克己⑪ 高橋厚夫⑨ 高橋 操⑤ 永瀬信一⑥ 檜垣成実⑥ 廣戸 修⑤ 宮本 享⑦ 森山輝夫⑩
安来地区	6	赤井耕太郎② 加藤正雄⑥ 木下 聡④ 島田 彰⑪ 田辺 潔⑦ 富田裕樹⑦
宍道地区	5	安部 廣④ 飯塚康紀② 伊藤隆庸⑧ 仲田雅美④ 本常建治③
仁多地区	13	安部正教⑤ 磯田愛廣④ 伊藤日出男③ 糸賀寿夫④ 大谷誠二① 田村明男⑦ 千原祥道⑩ 塔村勇治③ 長澤幸雄⑩ 中村勝好⑦ 福間久八① 松原光男③ 渡部一夫⑥
木次地区	10	奥井一徳② 周藤吉朗② 周藤茂雄② 田中浩二④ 難波安生⑤ 西村和広① 野津朗利① 藤原弘志④ 本田正次③ 渡部伸二②
大東地区	7	青木達夫④ 植田耕志⑤ 木下光夫② 木村昭憲③ 小山繁樹⑥ 藤原 勇⑤ 山根英利③
飯石地区	8	伊藤 隆① 後藤浩二① 炭谷 明③ 高橋健次③ 都間正隆② 中澤豊和② 中村節夫② 森島功武④

※氏名の後の数字は総代への就任回数

(平成28年6月27日現在)

<総代の属性別構成比>

職業別

法人代表者等	91.8%
個人事業主	6.2%
個人	2.1%

年代別

80代	10.3%
70代	19.6%
60代	54.6%
50代	14.4%
40代	1.0%

業種別

建設業	32.0%	病院・医療	2.1%
卸・小売業	26.8%	電気ガス熱供給	2.1%
サービス業	10.3%	運輸業	1.0%
製造業	7.2%	学校	1.0%
飲食店・宿泊業	6.2%	保険業	1.0%
不動産業	4.1%	その他	2.1%
林業	4.1%		

● 店舗一覧

店舗名	住所	電話	キャッシュサービスご利用時間		ICカード 対応	通帳繰越 機能	視覚障がい者 対応
			平日	土・日・祝			
■松江市							
本店営業部	松江市御手船場町557-4	(0852)23-2500	8:00~20:00	8:45~19:00	○	○	○
母衣町支店	松江市母衣町81	(0852)21-3388	8:45~19:00	8:45~17:00	○		
雑賀支店	松江市本郷町3-19	(0852)21-3134	8:45~19:00	8:45~17:00	○	○	○
春日支店	松江市春日町635-2	(0852)21-7733	8:45~19:00	8:45~17:00	○	○	○
乃木支店	松江市上乃木4丁目33-6	(0852)26-4361	8:45~19:00	8:45~17:00	○		
宍道支店	松江市宍道町昭和98	(0852)66-0736	8:45~19:00	8:45~17:00	○	○	○
■出雲市							
出雲支店	出雲市姫原2丁目3-4	(0853)21-3001	8:45~19:00	8:45~19:00	○	○	○
■安来市							
安来支店	安来市安来町1111-11	(0854)22-3741	8:45~19:00	8:45~17:00	○		
■雲南市							
木次支店	雲南市木次町里方30-3	(0854)42-0855	8:45~19:00	8:45~17:00	○	○	○
大東支店	雲南市大東町大東966-1	(0854)43-2063	8:45~19:00	8:45~17:00	○	○	○
三刀屋支店	雲南市三刀屋町三刀屋324-4	(0854)45-2514	8:45~19:00	8:45~17:00	○		
■仁多郡							
横田支店	仁多郡奥出雲町横田893	(0854)52-0112	9:00~18:00	—	○		
仁多支店	仁多郡奥出雲町三成325-12	(0854)54-1072	9:00~18:00	—	○	○	○

(平成28年6月30日現在)

● 店外キャッシュサービスコーナー一覧

店舗名	住所	キャッシュサービスご利用時間		ICカード 対応	通帳繰越 機能	視覚障がい者 対応
		平日	土・日・祝			
■松江市						
イオン松江店出張所	松江市東朝日町151	9:00~21:00	9:00~20:00	○	○	○
みしまや学園店出張所	松江市学園2丁目34-6	9:00~21:00	(土) 9:00~21:00 (日・祝) 9:00~19:00	○		
みしまや田和山店出張所	松江市田和山町41	9:00~21:00	(土) 9:00~21:00 (日・祝) 9:00~19:00	○	○	○
■雲南市						
みしまや三刀屋店出張所	雲南市三刀屋町三刀屋73-33	9:00~21:00	(土) 9:00~21:00 (日・祝) 9:00~19:00	○	○	○
■仁多郡						
横田蔵市出張所	仁多郡奥出雲町下横田84	9:00~19:00	9:00~19:00		(CD) お引出のみ	
仁多ショッピングセンター出張所	仁多郡奥出雲町三成410	9:00~19:00	(土) 9:00~17:00 (日) 10:00~17:00 (祝) —		(CD) お引出のみ	
■飯石郡						
頓原出張所	飯石郡飯南町頓原2231	9:00~19:00	9:00~17:00	○	○	○

(平成28年6月30日現在)

しましんのあゆみ

大正	13年 5月	木次信用組合設立、昭和27年6月木次信用金庫に改組、昭和30年5月雲南信用金庫に名称変更	平成	13年 4月	住宅ローン長期火災保険取扱開始
	15年 10月	松江信用組合設立、昭和26年10月松江信用金庫に改組		10月	住宅ローン債務返済支援保険取扱開始
昭和	39年 5月	三刀屋支店新築移転	14年 3月	しましん木次信友会結成	
	41年 10月	横田支店新築移転	10月	個人年金保険「しんきんらいふ年金」取扱開始	
	44年 11月	しましん木次青友会結成	15年 9月	しんきん新インターネットバンキング取扱開始	
	46年 5月	旧雲南信用金庫本店(現木次支店)新築移転	16年 1月	マルチペイメントネットワーク(MPN)取扱開始	
	10月	松江信用金庫と雲南信用金庫が対等合併、しまね信用金庫に改称	3月	しんきんビジネスマッチングサービス取扱開始	
		初代理事長柴田午郎就任	10月	さんいんネットサービス(山陰7信金と山陰合銀ATMのネット利用料無料)取扱開始	
	47年 7月	環境衛生金融公庫の代理業務取扱開始	17年 1月	第4代理事長 中井敏夫就任	
	48年 1月	住宅金融公庫の代理業務取扱開始	1月	決済用普通預金取扱開始	
	49年 3月	しましん大東青友会結成	1月	印鑑照会システム導入	
	7月	宍道信交会結成	12月	しましん住宅ローン「フラット35」の取扱開始	
	9月	しましん横田青友会結成	12月	「個人向け国債」の募集開始	
	50年 10月	年金福祉事業団の代理業務取扱開始	18年 1月	ATM業態間提携による相互入金業務の取扱開始	
	12月	全国しんきん保証(株)の代理業務取扱開始	7月	他金庫キャッシュカードによるATM振込の取扱開始	
	12月	(財)住宅融資保証協会の代理業務取扱開始	19年 4月	退職金専用定期預金取扱開始	
	51年 6月	大東支店新築移転	10月	出雲東支店を出雲東出張所に名称変更	
	52年 5月	安来支店新築移転	20年 4月	「医療保険」「がん保険」取扱開始	
	6月	しましん仁多青友会結成	9月	出雲支店を今市町から姫原2丁目へ新築移転	
	11月	しましん三刀屋青友会結成	21年 10月	「学資保険」取扱開始	
	53年 12月	西日本建設業保証(株)の代理業務取扱開始	11月	出雲東出張所を廃止	
	54年 2月	全国銀行内国為替制度へ加盟	12月	金融円滑化休日相談窓口を開設	
4月	第2代理事長 古瀬芳就任	22年 3月	山陰6信用金庫合同「第1回山陰しんきんビジネスフェア」を開催		
55年 3月	(社)全国市街地再開発協会の代理業務取扱開始	7月	出雲駅前出張所を廃止		
5月	しましん頓原青友会結成	23年 7月	「終身保険」取扱開始		
57年 1月	建設業、清酒製造業、林業退職共済組合の代理業務取扱開始	10月	山陰6信用金庫合同「第2回山陰しんきんビジネスフェア」を開催		
6月	春日支店開設	12月	頓原支店を閉店し木次支店へ統合		
12月	日銀松江支店と当座預金取引開始	12月	頓原出張所(キャッシュコーナー)開設		
58年 10月	国債等の窓口販売業務取扱開始	24年 1月	第5代理事長 石川茂夫就任		
59年 2月	「日本銀行蔵入代理店」事務取扱開始	9月	頓原出張所(キャッシュコーナー)移転		
60年 12月	出雲東支店開設	25年 3月	鳥根県と県内3信金・信金中金による「産業振興等に関する包括協定書」を締結しました。		
63年 3月	仁多支店新築開店	10月	雑賀支店移転		
10月	第3次オンラインスタート	11月	山陰6信用金庫合同「第3回山陰しんきんビジネスフェア」を開催		
元年 11月	宍道支店新築移転開店	26年 5月	松江市と包括的業務協定を締結しました。		
平成	2年 7月	都銀、地銀とのCD提携開始	5月	創立90周年記念式典の開催	
	7月	母衣町支店移転開店茶町支店廃止、母衣町支店茶町出張所開店	7月	VISA一体型「しましんDanDanカード」の取扱開始	
	11月	乃木支店開店	10月	山陰6信用金庫合同「第4回山陰しんきんビジネスフェア」を開催	
	11月	サンデーバンキング開始	27年 10月	営業地区を鳥根県全域および鳥取県米子市(旧淀江町を除く)、境港市に変更しました。	
	3年 8月	両替商業業務取扱開始			
	6年 1月	第3代理事長伊藤泰嗣就任			
	8年 2月	ポスト3次オンライン(第1ステップ)開始			
	9年 4月	インターネットにホームページを開設			
	12月	休日のATM入金の取扱開始			
	10年 10月	頓原出張所支店昇格			
	11年 10月	新本店の竣工式			
	11月	新本店で営業開始			

財務資料

単体財務諸表	39
主要な事業の状況	45
会員数・出資金および職員の状況	45
主要な業務の状況を示す指標	45
預金に関する指標	47
貸出金等に関する指標	47
有価証券に関する指標	48
リスク管理債権	49
自己資本の充実の状況等	51
役員報酬に関する事項	58
有価証券の評価損益	59
退職給付に関する事項	60

単体財務諸表

貸借対照表

(単位: 百万円)

資産の部			負債の部		
科 目	第44期 〔平成27年3月31日現在〕	第45期 〔平成28年3月31日現在〕	科 目	第44期 〔平成27年3月31日現在〕	第45期 〔平成28年3月31日現在〕
現金	1,171	1,373	預金積金	83,086	84,798
預け金	16,105	14,167	当座預金	1,155	1,588
有価証券	24,280	27,222	普通預金	25,849	27,465
国債	4,147	3,728	貯蓄預金	177	184
地方債	4,110	5,434	通知預金	101	109
社債	9,937	10,254	定期預金	53,397	52,856
株式	36	114	定期積金	2,024	2,211
その他の証券	6,048	7,689	その他の預金	381	382
貸出金	49,832	50,662	借入金	2,655	2,613
割引手形	105	77	借入金	655	2,613
手形貸付	2,657	2,114	当座借越	2,000	-
証書貸付	40,118	41,682	その他負債	360	341
当座貸越	6,951	6,788	未決済為替借	23	21
その他資産	499	624	未払費用	122	148
未決済為替貸	13	9	給付補填備金	1	0
信金中金出資金	270	410	未払法人税等	80	27
前払費用	0	2	前受収益	27	23
未収収益	143	130	払戻未済金	0	0
その他の資産	72	72	払戻未済持分	0	0
有形固定資産	2,024	1,910	職員預り金	19	18
建物	844	798	リース債務	73	89
土地	1,058	969	その他の負債	12	10
リース資産	73	89	賞与引当金	59	54
その他の有形固定資産	48	53	役員退職慰労引当金	39	42
無形固定資産	9	8	その他の引当金	53	32
ソフトウェア	4	3	繰延税金負債	4	128
その他の無形固定資産	4	4	再評価に係る繰延税金負債	147	127
債務保証見返	323	382	債務保証	323	382
貸倒引当金	△748	△659	負債の部合計	86,730	88,521
(うち個別貸倒引当金)	(△568)	(△488)			
			純資産の部		
			出資金	420	419
			普通出資金	420	419
			利益剰余金	5,358	5,547
			利益準備金	431	431
			その他利益剰余金	4,926	5,115
			特別積立金	4,607	4,707
			(体質強化積立金)	(3,560)	(3,660)
			当期末処分剰余金	319	408
			会員勘定合計	5,778	5,967
			その他有価証券評価差額金	646	915
			土地再評価差額金	341	287
			評価・換算差額等合計	988	1,203
			純資産の部合計	6,767	7,170
資産の部合計	93,497	95,692	負債及び純資産の部合計	93,497	95,692

(注)

1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。
2. 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法、その他有価証券のうち時価のあるものについては決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法又は償却原価法により行なっております。なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。
3. 有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却は、定額法を採用しております。また、主な耐用年数は次のとおりであります。
建 物 6年～50年
その他 3年～20年
4. 自金庫利用のソフトウェアについては、金庫内における利用可能期間(5年)に基づく定額法により償却しております。
5. 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産の減価償却は、リース期間を耐用年数とした定額法によっております。なお、残存価額については零としております。
6. 外貨建資産・負債は、主として決算日の為替相場による円換算額を付しております。
7. 貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。
「銀行等金融機関の資産の自己査定並びに貸倒償却及び貸倒引当金の監査に関する実務指針」(日本公認会計士協会銀行等監査特別委員会報告第4号)に規定する正常先債権及び要注意先債権に相当する債権については、一定の種類毎に分類し、過去の一定期間における各々の貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。破綻懸念先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち必要と認められる額を計上しております。破綻先債権及び実質破綻先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額を計上しております。
18. の貸出条件緩和債権を有する債務者で、未保全額が一定額以上の大口債務者に係る債権については、キャッシュ・フロー見積法(DCF法)を適用し、債権の元本の回収および利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積り、当該キャッシュ・フローを当初の約定利率で割引いた金額と債権の帳簿価額との差額を引当てております。すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。
8. 賞与引当金は、職員への賞与の支払に備えるため、職員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。
9. 退職給付引当金は、職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。また、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度までの期間に帰属させる方法については期間定額基準によっております。なお、過去勤務費用及び数理計算上の差異の費用処理方法は以下のとおりであります。
過去勤務費用 その発生年度の職員の平均残存勤務期間内の一定の年数(5年)による定額法により費用処理
数理計算上の差異 各発生年度の職員の平均残存勤務期間内の一定の年数(10年)による定率法により算出した額を(発生翌事業年度から)費用処理
当金庫は複数事業主(信用金庫等)により設立された企業年金制度(総合設立型厚生年金基金)に加入しており、当金庫の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができないため、当該年金制度への拠出額を退職給付費用として処理しております。
なお、当該企業年金制度全体の直近の積立状況及び制度全体の拠出等に占める当金庫の割合並びにこれらに関する補足説明は次のとおりであります。
- ①制度全体の積立状況に関する事項(平成27年3月31日現在)
年金資産の額 1,659,830百万円
年金財政計算上の数理債務の額
と最低責任準備金の額との合計額 1,824,563百万円
差引額 △164,732百万円
- ②制度全体に占める当金庫の掛金拠出割合
(自平成27年3月1日至平成27年3月31日) 0.0659%
- ③補足説明
上記①の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高247,567百万円及び別途積立金82,834百万円であり、本制度における過去勤務債務の償却方法は期間19年0ヶ月の元利均等定率償却であり、当金庫は、当事業年度の財務諸表上、特別掛金13百万円を費用処理しております。
なお、特別掛金の額は、予め定められた掛金率を掛金拠出時の標準給与の額に乗じることで算定されるため、上記②の割合は当金庫の実際の負担割合とは一致しません。
10. 役員退職慰労引当金は、役員の退職慰労金の支給に備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見積額のうち、当事業年度末までに発生していると認められる額を計上しております。
11. 睡眠預金払戻損失引当金(その他の引当金)は、負債計上を中止した預金について預金者からの払戻請求による支払いに備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認められる額を計上しております。

12. 偶発損失引当金(その他の引当金)は、信用保証協会への負担金の支払いに備えるため、将来の負担金支払見込額を計上しております。
13. 消費税及び地方消費税の会計処理は、税込方式によっております。
14. 理事及び監事との間の取引による理事及び監事に対する金銭債権総額 198百万円
15. 有形固定資産の減価償却累計額 1,380百万円
16. 貸出金のうち、破綻先債権額108百万円、延滞債権額は1,914百万円であり、
なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。
また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。
17. 貸出金のうち、3ヶ月以上延滞債権額はありません。
なお、3ヶ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヶ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
18. 貸出金のうち貸出条件緩和債権額は535百万円であり、
なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3ヶ月以上延滞債権に該当しないものであります。
19. 破綻先債権額、延滞債権額、3ヶ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は2,558百万円であり、
なお、16.から19.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
20. 手形割引は、業種別監査委員会報告第24号に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は77百万円であり、
21. 担保に供している資産は次のとおりであります。
担保に供している資産
有価証券 107百万円
預 け 金 2,903百万円
現 金 0百万円
担保資産に対応する債務
預 金 199百万円
借 用 金 2,613百万円
上記のほか、為替決済等の担保として預け金1,500百万円を差入れております。
また、その他の資産のうち保証金は63百万円であり、
22. 土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。
再評価を行った年月日：平成11年3月31日
同法律第3条第3項に定める再評価の方法：土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める、地価税法第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価額に合理的な調整を行って算出する方法と、同条第5号に定める不動産鑑定士による鑑定評価を併用。
同法律第10条に定める再評価を行った事業用土地の当事業年度末における時価の合計額と当該事業用土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額423百万円。
23. 出資1口当たりの純資産額853円69銭。
24. 金融商品の状況に関する事項
(1) 金融商品に対する取組方針
当金庫は、預金業務、融資業務および市場運用業務などの金融業務を行っております。
このため、金利変動による不利な影響が生じないように、資産及び負債の総合的管理(ALM)を行っております。
(2) 金融商品の内容及びそのリスク
当金庫が保有する金融資産は、主として事業地区内のお客様に対する貸出金です。
また、有価証券は、主に債券、投資信託及び株式であり、満期保有目的及び純投資目的で保有しております。
これらは、それぞれ発行体の信用リスク及び金利の変動リスク、市場価格の変動リスクに晒されております。
一方、金融負債は主としてお客様からの預金であり、流動性リスクに晒されております。
また、変動金利の預金については、金利の変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスクの管理

当金庫は、リスク管理規程及び信用リスクに関する管理諸規程に従い、貸出金について、個別案件ごとの与信審査、与信限度額、信用情報管理、保証や担保の設定、問題債権への対応など、与信管理に関する体制を整備し運営しております。

これらの与信管理は、各営業店のほか審査部により行われ、また、定期的に審査会やローンレビュー会議を開催し、審議・報告を行っております。

さらに、与信管理の状況については、監査部がチェックしております。

有価証券の発行体の信用リスクに関しては、経営企画部において、信用情報や時価の把握を定期的に行うことで管理しております。

②市場リスクの管理

(i) 金利リスクの管理

当金庫は、総合リスク管理会議によって金利の変動リスクを管理しております。

リスク管理規程において、リスク管理方法や手続等の詳細を明記しており、総合リスク管理会議において決定されたALMIに関する方針に基づき、理事会において実施状況の把握・確認、今後の対応等の協議を行っております。

日常的には経営企画部において金融資産及び負債の金利や期間を総合的に把握し、ギャップ分析や金利感応度分析等によりモニタリングを行い、月次ベースで総合リスク管理会議に報告しております。

(ii) 為替リスクの管理

当金庫は、為替により元本が変動する資産、負債を保有していません。また、有価証券については、利息が為替により変動するパワーリバースデュアルカレンシー債を保有しており、為替の変動が収益に与える影響を計測し、定期的に総合リスク管理会議へ報告しております。

(iii) 価格変動リスクの管理

有価証券を含む市場運用商品の保有については、総合リスク管理会議の方針に基づき、理事会の監督の下、有価証券運用基準に従い行われております。

このうち、経営企画部では、市場運用商品の購入を行っており、事前審査、投資限度額の設定のほか、継続的なモニタリングを通じて、価格変動リスクの軽減を図っております。

経営企画部で保有している株式の多くは、純投資目的で保有しているものであり、取引先の市場環境や財務状況などをモニタリングしています。

これらの情報は経営企画部を通じ、総合リスク管理会議において定期的に報告されております。

(iv) 市場リスクに係る定量的情報

当金庫において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、「預け金」、「有価証券」のうち債券、「貸出金」、「預金積金」、「借入金」であります。

当金庫では、これらの金融資産及び金融負債について、保有期間1年、過去5年の観測期間で計測される99パーセンタイル値を用いた経済価値の変動額を市場リスク量とし、金利の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しております。

当該変動額の算定にあたっては、対象の金融資産及び金融負債をそれぞれ金利期日に応じて適切な期間に残高を分解し、期間ごとの金利変化幅を用いております。

なお、金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定した場合の99パーセンタイル値を用いた経済価値は542百万円減少するものと把握しております。

当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数との相関を考慮していません。

また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

③資金調達に係る流動性リスクの管理

当金庫は、ALMを通して、適時に資金管理を行うほか、資金調達手段の多様化、市場環境を考慮した長短の調達バランスの調整などによって、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。

なお、金融商品のうち貸出金については、簡便な計算により算出した時価に代わる金額を開示しております。

25. 金融商品の時価等に関する事項

平成28年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は、次表には含めておりません(注2)参照)。また、重要性の乏しい科目については記載を省略しております。

(単位: 百万円)

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 現金	1,373	1,373	—
(2) 預け金	14,167	14,326	159
(3) 有価証券			
満期保有目的の債券	1,741	1,681	△59
その他有価証券	25,480	25,480	—
(4) 貸出金(*1)	50,662		
貸倒引当金(*2)	△658		
	50,003	51,732	1,728
金融資産計	92,766	94,595	1,828
(1) 預金積金	84,798	84,941	142
(2) 借入金	2,613	2,705	92
金融負債計	87,411	87,646	234

(*1) 貸出金の「時価」には、「簡便な計算により算出した時価に代わる金額」を記載しております。

(*2) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

(注1) 金融商品の時価等の算定方法

金融資産

(1) 預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。満期のある預け金については、残存期間に基づく区分ごとに、新規に預け金を行った場合に想定される適用金利で割り引いた現在価値を算定しております。

(2) 有価証券

株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。投資信託は、公表されている基準価格によっております。

なお、保有目的区分ごとの有価証券に関する注記事項については26.から28.に記載しております。

(3) 貸出金

貸出金は、以下の①～③の合計額から、貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除する方法により算定し、その算出結果を時価に代わる金額として記載しております。

① 破綻懸念先債権、実質破綻先債権及び破綻先債権等、将来キャッシュ・フローの見積りが困難な債権については、貸借対照表中の貸出金勘定に計上している額(貸倒引当金控除前の額。以下「貸出金計上額」という。)

② ①以外のうち、変動金利によるものは貸出金計上額

③ ①②以外のうち、固定金利によるものは貸出金の期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を市場金利(LIBOR、SWAP)で割り引いた価額

金融負債

(1) 預金積金

要求払預金については、決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしております。また、定期預金の時価は、一定期間ごとに区分して、将来のキャッシュ・フローを割り引いて現在価値を算定し、その算出結果を時価に代わる金額として記載しております。その割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。

(2) 借入金

借入金のうち、変動金利によるものは、短期で市場金利を反映し、また、当金庫の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、一定の期間ごとに区分した当該借入金の元利金の合計額を市場金利(LIBOR、SWAP)で割り引いて現在価値を算定し、その算出結果を時価に代わる金額として記載しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりであり、金融商品の時価情報には含まれておりません。

(単位: 百万円)

区 分	貸借対照表計上額
非上場株式(*1)	60
組合出資金(*2)	42
合 計	103

(*1) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしていません。

(*2) 組合出資金のうち、組合財産が非上場株式など時価を把握することが極めて困難と認められるもので構成されているものについては、時価開示の対象とはしていません。

26. 有価証券の時価及び評価差額等に関する事項は次のとおりであります。これらには、「国債」、「地方債」、「社債」、「株式」、「その他の証券」が含まれております。以下、28.まで同様であります。

満期保有目的の債券

	種類	貸借対照表計上額 (百万円)	時 価 (百万円)	差 額 (百万円)
時価が貸借対照表 計上額を超えるもの	その他	541	634	93
	小計	541	634	93
時価が貸借対照表 計上額を超えないもの	その他	1,200	1,047	△152
	小計	1,200	1,047	△152
合 計		1,741	1,681	△59

その他有価証券

	種類	貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差 額 (百万円)
貸借対照表計上 額が取得原価を 超えるもの	株式	7	5	2
	債券	18,828	17,669	1,158
	国債	3,728	3,445	283
	地方債	5,434	5,050	383
	社債	9,665	9,173	491
	その他	3,433	3,210	222
	小計	22,268	20,885	1,383
貸借対照表計上 額が取得原価を 超えないもの	株式	46	49	△3
	債券	589	605	△16
	国債	-	-	-
	地方債	-	-	-
	社債	589	605	△16
	その他	2,472	2,582	△109
小計	3,108	3,237	△128	
合計		25,377	24,122	1,254

27. 当事業年度中に売却したその他有価証券

	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	-	-	-
債券	638	14	0
国債	312	13	-
地方債	-	-	-
社債	325	0	0
その他	200	5	5
合計	838	19	5

28. その他有価証券及び満期保有目的の債券で時価のあるもののうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込があると認められないものについては、当該時価をもって貸借対照表価額とするとともに、評価差額を当事業年度の損失として処理(以下「減損処理」という。)しております。

当事業年度における減損処理額はありません。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、事業年度末における時価が帳簿価格の50%を下回った場合であります。

29. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、12,189百万円であります。このうち契約残存期間が1年以内のものが6,889百万円あります。

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当金庫の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。

30. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳は、それぞれ以下のとおりであります。

(単位: 百万円)

繰延税金資産	
貸倒引当金	122
固定資産(減価償却)	23
賞与引当金	14
役員退職慰労引当金	11
未払事業税	2
その他	41
繰延税金資産小計	215
評価性引当額	△4
繰延税金資産合計	210
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	338
その他	0
繰延税金負債合計	339
繰延税金負債の純額	128

損益計算書

(単位：千円)

科 目	第44期	第45期
	〔平成26年4月1日から平成27年3月31日まで〕	〔平成27年4月1日から平成28年3月31日まで〕
経常収益	1,799,134	1,687,623
資金運用収益	1,554,424	1,518,581
貸出金利息	1,110,056	1,059,013
預け金利息	67,988	63,575
有価証券利息配当金	368,270	386,531
その他の受入利息	8,109	9,460
役務取引等収益	86,765	91,344
受入為替手数料	39,551	39,732
その他の役務収益	47,213	51,611
その他業務収益	140,324	31,199
国債等債券売却益	131,229	19,861
国債等債券償還益	—	4,750
その他の業務収益	9,095	6,588
その他経常収益	17,619	46,496
貸倒引当金戻入益	—	25,591
償却債権取立益	8	—
株式等売却益	14,229	—
その他の経常収益	3,381	20,905
経常費用	1,620,958	1,450,950
資金調達費用	103,806	102,351
預金利息	89,841	89,446
給付補填備金繰入額	1,347	627
借入金利息	12,517	12,181
その他の支払利息	101	95
役務取引等費用	130,720	130,806
支払為替手数料	16,987	17,932
その他の役務費用	113,733	112,874
その他業務費用	8,971	18,328
国債等債券売却損	6,307	3,052
国債等債券償還損	2,195	14,900
その他の業務費用	468	376
経費	1,158,694	1,161,503
人件費	695,660	729,458
物件費	444,369	410,534
税金	18,665	21,510
その他経常費用	218,764	37,960
貸倒引当金繰入額	196,875	—
貸出金償却	13	139
株式等売却損	4,041	2,835
その他の経常費用	17,834	34,984
経常利益	178,175	236,672
特別利益	—	59,934
特別損失	1,170	39,942
固定資産処分損	1,170	13,992
減損損失	—	6,000
税引前当期純利益	177,005	176,737
法人税、住民税及び事業税	83,332	19,500
法人税等調整額	△ 34,585	5,365
当期純利益	128,257	151,872
前期繰越金	191,167	202,601
土地評価差額金取崩額	—	54,010
当期末処分剰余金	319,425	408,484

- (注) 1.記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。
 2.出資1口当たりの当期純利益18円06銭。
 3.当期において以下の資産について減損処理を計上しております。

場 所	用 途	種 類	減損損失
島根県安来市	営業店舗1か所	土地	7,098千円
島根県仁多郡	営業店舗1か所	土地	6,893千円

営業用店舗については、営業店(本店営業部、各支店)毎に継続的な収益の把握を行っていることから各営業店をグループの最小単位としております。本部においては独立したキャッシュフローを生み出さないことから共用資産としております。
 営業利益減少によるキャッシュフローの低下及び地価の下落等により、当該減少額13,992千円を「減損損失」として特別損失に計上しております。
 なお、当期の減損損失の測定に使用した回収可能価額は路線価評価額等を基礎とした正味売却価額であります。

剰余金処分計算書

(単位：円)

科 目	第44期	第45期
	(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)	(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)
当期末処分剰余金	319,425,265	408,484,680
剰余金処分額	116,823,318	212,599,878
普通出資に対する配当金(年3.0%の割)	12,617,489	12,599,878
90周年記念配当(年1.0%の割)	4,205,829	-
特別積立金	100,000,000	200,000,000
体質強化積立金	100,000,000	200,000,000
次期繰越金	202,601,947	195,884,802

監査法人による外部監査について

平成26年度及び27年度の貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分計算書は信用金庫法第38条の2の規定に基づき有限責任監査法人トーマツの監査を受けております。

財務諸表の適正性、及び財務諸表作成に係る 内部監査の有効性の確認について

平成27年度における貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分計算書(以下、「財務諸表」という。)の適正性、及び財務諸表作成に係る内部監査の有効性を確認しております。

平成28年6月27日

しまね信用金庫

理 事 長 石 川 茂 夫

主要な事業の状況

直近の5事業年度における主要な事業の状況

	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
経常収益	千円	2,021,854	2,050,070	1,885,968	1,799,134	1,687,623
経常利益	千円	213,643	153,706	421,779	178,175	236,672
当期純利益	千円	121,111	124,516	238,935	128,257	151,872
出資総額	百万円	423	421	421	420	419
出資総口数	百万口	8	8	8	8	8
純資産額	百万円	5,816	6,336	6,437	6,767	7,170
総資産額	百万円	90,974	92,931	90,092	93,174	95,309
預金積金残高	百万円	80,039	79,803	81,173	83,086	84,798
貸出金残高	百万円	48,783	49,054	48,569	49,832	50,662
有価証券残高	百万円	24,718	25,321	23,487	24,280	27,222
単体自己資本比率	%	14.57	14.63	15.36	15.43	15.17
出資に対する配当金(出資1口当たり)	円	2	2	2	2	1.5
職員数	人	129	123	123	122	118

(注) 1. 「単体自己資本比率」は、信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫がその保有する資産等に照らし、自己資本の充実の状況が適当かどうかを判断するために金融庁長官が定める基準にかかる算式に基づき算出しております。なお、当金庫は国内基準を採用しております。

2. 総資産額は債務保証見返を除いております。

会員数・出資金および職員の状況

会員数・出資金

	単位	平成26年度	平成27年度
会員数	人	10,035	10,104
出資金	百万円	420	419
出資配当率	%	3.0	3.0

職員の状況

	単位	平成26年度	平成27年度
職員総数	人	122	118
うち男子	人	70	69
うち女子	人	52	49
平均年齢	歳	39.5	40.1
平均勤続年数	年	12.4	12.5

主要な業務の状況を示す指標

業務粗利益

(単位：千円)

	平成26年度	平成27年度
資金運用収支	1,450,617	1,416,230
資金運用収益	1,554,424	1,518,581
資金調達費用	103,806	102,351
役務取引等収支	△ 43,955	△ 39,462
役務取引等収益	86,765	91,344
役務取引等費用	130,720	130,806
その他の業務収支	131,353	12,871
その他業務収益	140,324	31,199
その他業務費用	8,971	18,328
業務粗利益	1,538,015	1,389,639
業務粗利益率	1.76%	1.55%

(注) 業務粗利益率 = $\frac{\text{業務粗利益}}{\text{資金運用勘定平均残高}} \times 100$

資金運用収支の内訳

	平均残高 (百万円)		利息 (千円)		利回り (%)	
	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度
資金運用勘定	87,369	89,744	1,554,424	1,518,581	1.77	1.69
うち貸出金	46,923	47,415	1,110,056	1,059,013	2.36	2.23
うち預け金	17,459	16,923	67,988	63,575	0.38	0.37
うち有価証券	22,716	25,065	368,270	386,531	1.62	1.54
資金調達勘定	83,634	85,901	103,806	102,351	0.12	0.11
うち預金積金	82,929	85,046	91,188	90,074	0.10	0.10
うち借入金	685	836	12,517	12,181	1.82	1.45

(注) 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高(平成26年度6百万円、平成27年度11百万円)を控除して表示しております。

受取・支払利息の増減

(単位：千円)

	平成26年度			平成27年度		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	10,013	△ 70,006	△ 59,993	44,347	△ 75,659	△ 31,312
うち貸出金	22,519	△ 64,386	△ 41,867	11,783	△ 62,825	△ 51,042
うち預け金	7,485	△ 4,463	3,022	△ 2,031	△ 2,382	△ 4,413
うち有価証券	△ 20,019	△ 7,010	△ 27,029	34,567	△ 16,305	18,262
支払利息	376	△ 478	△ 102	△ 1,636	177	△ 1,459
うち預金積金	1,629	△ 914	715	2,522	△ 3,636	△ 1,114
うち借入金	△ 1,249	442	△ 807	△ 4,155	3,819	△ 336

(注) 残高及び利率の増減要因が重なる部分については按分しております。

利益率

(単位：%)

	平成26年度	平成27年度
総資産経常利益率	0.19	0.25
総資産当期純利益率	0.14	0.16

(注) 総資産経常(当期純)利益率 = $\frac{\text{経常(当期純)利益}}{\text{総資産(債務保証見返を除く)平均残高}} \times 100$

利鞘

(単位：%)

	平成26年度	平成27年度
資金運用利回	1.77	1.69
資金調達原価率	1.50	1.47
総資金利鞘	0.27	0.22

貸倒引当金内訳

(単位：百万円)

		期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
				目的使用	その他	
一般貸倒引当金	平成26年度	146	179	-	146	179
	平成27年度	179	170	-	179	170
個別貸倒引当金	平成26年度	470	568	64	405	568
	平成27年度	568	488	63	505	488
合計	平成26年度	616	748	64	551	748
	平成27年度	748	659	63	684	659

貸出金償却

(単位：千円)

平成26年度	13
平成27年度	139

預金に関する指標

預金積金及び譲渡性預金平均残高

(単位：百万円)

	平成26年度	平成27年度
流動性預金	27,282	28,231
うち利息預金	21,175	22,867
定期性預金	55,498	56,662
うち固定金利定期預金	55,406	56,587
うち変動金利定期預金	91	74
その他	148	152
計	82,929	85,046
譲渡性預金	-	-
合計	82,929	85,046

- (注) 1. 流動性預金＝当座預金＋普通預金＋貯蓄預金＋通知預金
 2. 定期性預金＝定期預金＋定期積金
 固定金利定期預金：預入時に満期日までの利率が確定する定期預金
 変動金利定期預金：預入期間中の市場金利の変化に応じて金利が変動する定期預金

定期性預金残高

(単位：百万円)

	平成26年度	平成27年度
定期預金	53,397	55,067
うち固定金利定期預金	53,314	54,994
うち変動金利定期預金	82	72
その他	-	-

貸出金等に関する指標

貸出金平均残高

(単位：百万円)

	平成26年度	平成27年度
手形貸付	1,601	1,167
証書貸付	39,297	40,606
当座貸越	5,930	5,565
割引手形	93	76
合計	46,923	47,415

貸出金残高

(単位：百万円)

	平成26年度	平成27年度
貸出金	49,832	50,662
変動金利	12,548	11,372
固定金利	37,283	39,289

貸出金使途別残高

(単位：百万円)

	平成26年度		平成27年度	
	貸出金残高	構成比	貸出金残高	構成比
設備資金	21,704	43.6%	22,759	44.9%
運転資金	28,128	56.4%	27,903	55.1%
合計	49,832	100.0%	50,662	100.0%

貸出金の担保別内訳

(単位：百万円)

	平成26年度	平成27年度
当金庫預金積金	539	434
有価証券	32	21
動産	-	-
不動産	7,502	7,443
その他	-	-
計	8,074	7,899
信用保証協会・信用保険	9,525	9,066
保証	11,964	12,272
信用	20,268	21,423
合計	49,832	50,662

債務保証見返の担保別内訳

(単位：百万円)

	平成26年度	平成27年度
当金庫預金積金	-	-
有価証券	-	-
動産	-	-
不動産	180	156
その他	-	-
計	180	156
信用保証協会・信用保険	-	-
保証	92	126
信用	50	100
合計	323	382

預貸率

(単位：%)

	平成26年度	平成27年度
期末預貸率	59.97	59.74
期中平均預貸率	56.58	55.75

$$(注) 預貸率 = \frac{\text{貸出金}}{\text{預金積金} + \text{譲渡性預金}} \times 100$$

貸出金業種別内訳

(単位：百万円・%)

業種区分	平成26年度			平成27年度		
	貸出先数	貸出金残高	構成比	貸出先数	貸出金残高	構成比
製造業	113	1,923	3.9	102	1,899	3.7
農業、林業	22	266	0.5	22	255	0.5
漁業	4	59	0.1	3	26	0.0
鉱業、採石業、砂利採取業	1	315	0.6	1	311	0.6
建設業	230	3,830	7.7	224	3,838	7.6
電気・ガス・熱供給・水道業	9	301	0.6	8	254	0.5
情報通信業	4	66	0.1	4	91	0.2
運輸業、郵便業	18	958	1.9	20	1,101	2.2
卸売業、小売業	247	4,754	9.5	223	4,441	8.8
金融業、保険業	12	2,492	5.0	13	3,256	6.4
不動産業	89	5,025	10.1	85	5,253	10.4
物品賃貸業	4	907	1.8	4	1,052	2.1
学術研究、専門・技術サービス業	13	71	0.1	17	669	1.3
宿泊業	14	133	0.3	13	120	0.2
飲食業	116	842	1.7	116	892	1.8
生活関連サービス業、娯楽業	52	617	1.2	52	542	1.1
教育、学習支援業	3	87	0.2	3	96	0.2
医療、福祉	22	2,260	4.5	24	2,302	4.5
その他のサービス	104	2,637	5.3	113	2,614	5.2
小計	1,077	27,553	55.3	1,047	29,020	57.3
地方公共団体	8	12,360	24.8	8	11,817	23.3
個人	5,941	9,918	19.9	5,736	9,824	19.4
合計	7,026	49,832	100.0	6,791	50,662	100.0

有価証券に関する指標

預証率

(単位：%)

	平成26年度	平成27年度
期末預証率	29.22	32.10
期中平均預証率	27.39	29.47

$$(注) 預証率 = \frac{\text{有価証券}}{\text{預金積金} + \text{譲渡性預金}} \times 100$$

商品有価証券の種類別の平均残高

該当ありません

有価証券平均残高

(単位：百万円)

	平成26年度	平成27年度
国債	3,953	3,835
地方債	3,430	4,875
短期社債	-	-
社債	10,126	9,537
株式	70	59
外国証券	3,542	4,399
投資信託	1,453	2,220
その他の証券	139	136
合計	22,716	25,065

有価証券残高

(単位：百万円)

	平成26年度	平成27年度
国債	4,147	3,728
地方債	4,110	5,434
短期社債	-	-
社債	9,937	10,254
株式	36	114
外国証券	4,123	4,810
投資信託	1,767	2,724
その他の証券	157	154
合計	24,280	27,222

有価証券の残存期間別残高

■ 平成26年度

(単位：百万円)

	1年以下	1年超3年以下	3年超5年以下	5年超7年以下	7年超10年以下	10年超	期間の定めのないもの	合計
国債	202	513	—	—	2,623	808	—	4,147
地方債	275	498	317	—	745	2,273	—	4,110
短期社債	—	—	—	—	—	—	—	—
社債	603	3,033	548	1,422	1,335	2,791	203	9,937
株式	—	—	—	—	—	—	36	36
外国証券	301	722	—	223	206	2,565	103	4,123
その他の証券	—	—	—	—	—	—	1,925	1,925

■ 平成27年度

(単位：百万円)

	1年以下	1年超3年以下	3年超5年以下	5年超7年以下	7年超10年以下	10年超	期間の定めのないもの	合計
国債	402	102	—	1,065	1,420	738	—	3,728
地方債	202	496	105	336	1,370	2,923	—	5,434
短期社債	—	—	—	—	—	—	—	—
社債	2,481	1,255	104	1,230	1,293	3,486	403	10,254
株式	—	—	—	—	—	—	114	114
外国証券	100	614	105	328	207	3,454	—	4,810
その他の証券	27	38	323	283	1,097	—	1,108	2,878

リスク管理債権

リスク管理債権の引当・保全状況

(単位：百万円)

区分	残高 (A)	担保・保証 (B)	貸倒引当金 (C)	保全率 (%) (B+C)/A	
破綻先債権	平成26年度	111	34	77	100.00
	平成27年度	108	38	69	99.07
延滞債権	平成26年度	2,424	1,938	486	100.00
	平成27年度	1,914	1,497	417	100.00
3ヶ月以上延滞債権	平成26年度	—	—	—	—
	平成27年度	—	—	—	—
貸出条件緩和債権	平成26年度	539	28	101	23.93
	平成27年度	535	57	99	29.16
合計	平成26年度	3,075	2,001	664	86.66
	平成27年度	2,558	1,593	585	88.23

(注)

- 「破綻先債権」とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していること、その他の事由により、元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（未収利息不計上貸出金）のうち、次のいずれかに該当する債務者に対する貸出金です。
 - 更生手続開始の申立てがあった債務者
 - 再生手続開始の申立てがあった債務者
 - 破産手続開始の申立てがあった債務者
 - 特別清算開始の申立てがあった債務者
 - 手形交換所による取引停止処分を受けた債務者
- 「延滞債権」とは、未収利息不計上貸出金のうち次の2つを除いた貸出金です。
 - 上記「破綻先債権」に該当する貸出金
 - 債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金
- 「3ヶ月以上延滞債権」とは、元本または利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しない貸出金です。
- 「貸出条件緩和債権」とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しない貸出金です。
- なお、これらの開示額は、担保処分による回収見込額、保証による回収が可能と認められる額や既に引当てている個別貸倒引当金を控除する前の金額であり、全てが損失となるものではありません。
- 「担保・保証額」は、自己査定に基づいて計算した担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額の合計額です。
- 「貸倒引当金」については、リスク管理債権区分の各項目の貸出金に対して引当てた金額を記載しており、貸借対照表の残高より少なくなっています。
- 保全率はリスク管理債権ごとの残高に対し、担保・保証、貸倒引当金を設定している割合です。

金融再生法開示債権及び同債権に対する保全状況

(単位：百万円、%)

区分		開示残高 (a)	保全額 (b)	担保・保証等による回収見込額 (c)	貸倒引当金 (d)	保全率 (b) / (a)	引当率 (d) / (a-c)	
金融再生法上の不良債権	平成26年度	3,081	2,672	2,003	669	86.73	62.05	
	平成27年度	2,560	2,181	1,594	587	85.19	60.76	
	破産更生債権及びこれらに準ずる債権	平成26年度	672	672	460	212	100.00	100.00
		平成27年度	478	478	282	196	100.00	100.00
	危険債権	平成26年度	1,869	1,869	1,514	355	100.00	100.00
		平成27年度	1,546	1,546	1,254	292	100.00	100.00
	要管理債権	平成26年度	539	129	28	101	23.93	19.77
		平成27年度	535	156	57	99	29.15	20.71
正常債権	平成26年度	47,121						
	平成27年度	48,526						
合計	平成26年度	50,203						
	平成27年度	51,087						

(注)

1. 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
2. 「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。
3. 「要管理債権」とは、「3ヶ月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する貸出金をいいます。
4. 「正常債権」とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がない債権であり、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外の債権をいいます。
5. 「金融再生法上の不良債権」における「貸倒引当金」には、正常債権に対する一般貸倒引当金を除いて計上しております。

自己資本の充実の状況等

定性的開示事項

■自己資本調達手段の概要

当金庫の自己資本は、会員の皆様からお預かりしている(普通)出資金のほか、当金庫が積立てているものがあります。

■自己資本の充実度に関する評価方法の概要

当金庫の自己資本比率は国内基準である4%を大きく上回り、経営の健全性・安全性は十分確保されています。また、内包する各リスク(信用リスク、金利リスク、オペレーショナルリスク)は自己資本で十分対処できるものと考えております。

今後は、年度ごとの事業目標を着実にクリアし利益を積上げることにより自己資本をさらに充実させたいと考えています。

■信用リスクに関する項目

《リスク管理の方針及び手続きの概要》

信用リスクとは、信用供与先の財務状況の悪化等により、資産の価値が減少あるいは消失し、当金庫が損失を被るリスクをいいます。

当金庫では、中小・零細事業者への融資を基本とし、小口多数によるリスク分散を図るとともに、特定業種、特定先に対する与信限度額を設定するなど信用リスクの軽減に努めています。

信用リスクは、厳格な自己査定と信用格付による債務者区分別、格付ランク別に評価するとともに、大口融資先や問題債権についてはローンレビュー会議等で取組方針を検討しリスクの抑制に努めています。

信用リスク管理では、与信審査・与信管理・問題債権管理・自己査定を各担当部署で行っており、管理状況は定期的に総合リスク管理会議に報告し協議・検討するほか必要に応じ理事会に報告する態勢を整備しております。

貸倒引当金は「自己査定基準」及び「償却・引当に関する規程」に基づき、自己査定における債務者区分ごとに計算された貸倒実績率を基に算定するとともに、その結果については監査法人の監査を受けるなど、適正な計上に努めております。

《リスクウェイトの判定に使用する適格格付機関》

リスクウェイトの判定に使用する適格格付機関は以下の4つの機関を採用しています。なお、エクスポージャーの種類ごとの適格格付機関の使い分けは行っておりません。

- ・(株)格付投資情報センター(R&I)
- ・(株)日本格付研究所(JCR)
- ・ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク(Moody's)
- ・スタンダード・アンド・プアーズ・レーティング・サービス(S&P)

■信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続きの概要

当金庫が扱う担保には、自金庫預金積金、有価証券、不動産等、保証には、人的保証、信用保証協会保証、民間保証等がありますが、その手続きについては、当金庫が定める規程、取扱要領に従い適切な事務取扱い及び適正な評価を行っております。

お客様が期限の利益を失われた場合には、全ての与信取引の範囲において、預金相殺等する場合があります。

この際、信用リスク削減方策の一つとして、金庫が定める規程、取扱要領や各種約定書等に基づき、法的に有効である旨確認の上、事前の通知や諸手続を省略して払戻充当いたします。

■派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関するリスク管理の方針及び手続きの概要

当金庫では、有価証券関連取引のうち投資信託において、資産の効率的な運用に資するため外国為替関連取引等の派生商品取引が生じております。投資信託については、有価証券運用基準における投資方針の中で一定の投資枠内での取引に限定しており、派生商品取引のリスクは限定的です。

■証券化エクスポージャーに関する事項

当金庫は、証券化取引を行っておりません。

■オペレーショナル・リスクに関する事項

《リスク管理の方針及び手続の概要》

当金庫はオペレーショナル・リスクについて、事務リスク、システムリスク、法務リスク、人的リスク、有形資産リスク、規制・制度変更リスク、風評リスクの各リスクを含む幅広いリスクと考え、管理体制や管理方法に関するリスク管理の基本方針をそれぞれのリスクについて定め、確実にリスクを認識し、評価しております。

リスクの計測に関しましては、当面、基礎的手法を採用することとし、態勢を整備しております。

また、これらのリスクに関しましては、オペレーショナル・リスクの総合管理部署を設置し管理するほかコンプライアンス委員会、総合リスク管理会議において協議・検討するとともに、必要に応じて理事会に報告する態勢を整備しております。

《オペレーショナル・リスク相当額の算出に使用する手法の名称》

当金庫は基礎的手法を採用しております。

■銀行勘定における出資その他これに類するエクスポージャー又は株式等エクスポージャーに関するリスク管理の方針及び手続の概要

上場株式、上場優先出資証券、株式関連投資信託に係るリスクの認識については、時価評価及び時価が一定割合下落したときの損失額をリスク量として把握するとともに、運用状況やリスクの状況について、定期的に総合リスク管理会議に報告し協議・検討するほか必要に応じ理事会に報告する態勢を整備しております。

また、非上場株式、子会社・関連会社株式、政策投資株式、その他ベンチャーファンド又は投資事業組合への出資金に関しては、当金庫が定める規程、要領などに基づいた適正な運用・管理を行っております。また、リスクの状況は、財務諸表や運用報告を基にした評価による定期的なモニタリングを実施するとともに、その状況については、適宜、経営陣へ報告を行うなど、適正なリスク管理に努めております。

なお、当該取引に係る会計処理については、当金庫が定める「有価証券会計処理基準」及び日本公認会計士協会の「金融商品会計に関する実務指針」に従った、適正な処理を行っております。

■銀行勘定における金利リスクに関する事項

《リスク管理の方針及び手続の概要》

金利リスクとは、市場金利の変動によって受ける資産価値の変動や、将来の収益性に対する影響を指しますが、当金庫においては、双方ともに定期的な評価・計測を行い、適宜、対応を講じる態勢としております。

具体的には、一定の金利ショックを想定した場合の銀行勘定の金利リスクの計測や、金利更改を勘案した期間収益シミュレーションによる収益への影響度、さらには新商品の導入による影響など、総合リスク管理会議で協議検討するとともに、必要に応じて理事会へ報告を行うなど、資産・負債の最適化に向けたリスク・コントロールに努めております。

《内部管理上使用した銀行勘定における金利リスクの算定手法の概要》

金利リスク算定の前提は、以下の定義に基づいて算定しております。

・計測手法

金利ラダー方式

・コア預金

対象 流動性預金(当座預金、普通預金等)

算定方法 現残高の50%相当額

満期 平均2.5年

・金利ショック幅

保有期間1年、5年の観測期間で計測される金利変動の1パーセンタイル値と99パーセンタイル値による金利ショック

・リスク計測の頻度

月次

定量的開示事項

■自己資本の構成

(単位：百万円)

項 目	平成	経過措置による 不算入額	平成	経過措置による 不算入額
	26年度		27年度	
コア資本に係る基礎項目 (1)				
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額	5,762		5,954	
うち、出資金及び資本剰余金の額	420		419	
うち、利益剰余金の額	5,358		5,547	
うち、外部流出予定額(△)	16		12	
うち、上記以外に該当するものの額	-		-	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	179		170	
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	179		170	
うち、適格引当金コア資本算入額	-		-	
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-		-	
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本 調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-		-	
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の45パーセントに 相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	198		151	
コア資本に係る基礎項目の額 (イ)	6,139		6,277	
コア資本に係る基礎項目 (2)				
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)の額の合計額	1	7	3	5
うち、のれんに係るものの額	-	-	-	-
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	1	7	3	5
繰延税金資産(一時差異に係るものを除く。)の額	-	-	-	-
適格引当金不足額	-	-	-	-
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	-	-	-	-
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	-	-	-	-
前払年金費用の額	-	-	1	1
自己保有普通出資等(純資産の部に計上されるものを除く。)の額	-	-	-	-
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	-	-	-	-
少数出資金融機関等の対象普通出資等の額	-	-	-	-
信用金庫連合会の対象普通出資等の額	-	-	-	-
特定項目に係る10パーセント基準超過額	-	-	-	-
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	-	-	-	-
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	-	-	-	-
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	-	-	-	-
特定項目に係る15パーセント基準超過額	-	-	-	-
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	-	-	-	-
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	-	-	-	-
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	-	-	-	-
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)	1		4	
自己資本				
自己資本の額((イ)-(ロ)) (ハ)	6,137		6,273	
リスク・アセット等 (3)				
信用リスク・アセットの額の合計額	37,001		38,639	
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	7		6	
うち、無形固定資産(のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)	7		5	
うち、繰延税金資産	-		-	
うち、前払年金費用	-		1	
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	-		-	
うち、上記以外に該当するものの額	-		-	
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8パーセントで除して得た額	2,757		2,700	
信用リスク・アセット調整額	-		-	
オペレーショナル・リスク相当額調整額	-		-	
リスク・アセット等の額の合計額 (ニ)	39,759		41,340	
自己資本比率				
自己資本比率((ハ)/(ニ))	15.43%		15.17%	

(注) 自己資本比率の算出方法を定めた「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第21号)」に基づき算出しております。

なお、当金庫は国内基準を採用しております。

■自己資本の充実度

(単位：百万円)

	平成26年度		平成27年度	
	リスク・アセット	所要自己資本額	リスク・アセット	所要自己資本額
イ. 信用リスクアセット・所要自己資本の額合計	37,001	1,480	38,639	1,479
① 標準的手法が適用されるポートフォリオごとのエクスポージャー	36,992	1,479	38,630	1,545
ソブリン向け	752	30	879	35
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	7,607	304	7,823	312
法人等向け	12,180	487	14,256	570
中小企業等・個人向け	6,505	260	6,425	257
抵当権付住宅ローン	745	29	707	28
不動産取得等事業向け	4,161	166	3,832	153
三月以上延滞等	202	8	147	5
取立未済手形	2	0	1	0
出資等	722	28	1,011	40
その他	4,117	164	3,543	141
② 証券化エクスポージャー	-	-	-	-
③ 複数の資産を裏付とする資産(所謂ファンド)のうち、個々の資産の把握が困難な資産	-	-	-	-
④ 経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	7	0	6	0
⑤ 他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額	-	-	-	-
⑥ CVAリスク相当額を8%で除して得た額	2	0	2	0
⑦ 中央精算期間関連エクスポージャー	0	0	0	0
ロ. オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額	2,757	110	2,700	108
ハ. 単体総所要自己資本額(イ+ロ)	39,759	1,590	41,340	1,653

(注) 1. 所要自己資本の額=リスクアセット×4%

2. 「エクスポージャー」とは、資産(派生商品取引)によるものを除く)並びにオフバランス取引及び派生商品取引の与信相当額です。

3. 「ソブリン」とは、中央政府、中央銀行、地方公共団体、我が国の政府関係機関、土地開発公社、地方住宅供給公社、地方道路公社、外国の中央政府以外の公共部門(当該国内においてソブリン扱いになっているもの)、国際開発銀行、国際決済銀行、国際通貨基金、欧州中央銀行、欧州共同体、信用保証協会、農業信用基金協会及び漁業信用基金協会のことです。

4. 「三月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上延滞している債務者に係るエクスポージャー及び「法人等向け」においてリスク・ウェイトが150%になったエクスポージャーのことです。

5. オペレーショナルリスクは、当金庫は基礎的手法を採用しています。

＜オペレーショナル・リスク(基礎的手法)の算定方法＞

$$\frac{\text{粗利益(直近3年間のうち正の値の合計額)} \times 15\%}{\text{直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数}} \div 8\%$$

6. 単体総所要自己資本額=単体自己資本比率の分母の額×4%

■信用リスクに関する事項(証券化エクスポージャーを除く)

◎信用リスクに関するエクスポージャー及び主な種類別の期末残高
(地域別、業種別及び残存期間別)

(単位：百万円)

エクスポージャー 区分	信用リスクエクスポージャー期末残高								三月以上延滞 エクスポージャー	
			貸出金、コミットメント 及びその他のデリバ ティブ以外のオフ・バ ランス取引		有価証券・預け金・ その他		デリバティブ 取引			
	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度
国内	90,803	92,407	50,203	51,087	40,600	41,320	-	-	450	347
国外	4,003	4,073	-	-	4,003	4,073	-	-	-	-
地域別合計	94,807	96,481	50,203	51,087	44,604	45,394	-	-	450	347
製造業	2,535	2,329	2,137	2,108	398	221	-	-	81	26
農業、林業	290	280	290	280	-	-	-	-	8	-
漁業	109	83	109	83	-	-	-	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業	315	311	315	311	-	-	-	-	-	-
建設業	4,169	4,294	4,169	4,294	-	-	-	-	106	76
電気・ガス・熱供給・水道業	309	459	309	260	-	199	-	-	-	-
情報通信業	75	99	69	93	6	6	-	-	-	-
運輸業、郵便業	3,178	3,317	965	1,108	2,213	2,209	-	-	-	-
卸売業、小売業	5,477	5,173	4,977	4,648	500	525	-	-	53	32
金融業、保険業	27,689	26,946	2,632	3,383	25,057	23,563	-	-	-	-
不動産業	6,573	7,116	5,212	5,422	1,361	1,694	-	-	27	26
物品賃貸業	908	1,053	907	1,052	1	1	-	-	-	-
学術研究、専門・技術サービス業	111	707	111	707	-	-	-	-	-	-
宿泊業	148	131	148	131	-	-	-	-	-	-
飲食業	1,049	1,080	1,049	1,080	0	0	-	-	23	9
生活関連サービス業、娯楽業	848	771	848	771	-	-	-	-	31	30
教育、学習支援業	123	133	123	133	-	-	-	-	-	-
医療、福祉	2,493	2,535	2,273	2,317	220	218	-	-	-	-
その他のサービス	2,697	2,680	2,695	2,678	2	2	-	-	26	38
国・地方公共団体等	21,890	22,828	12,373	11,829	9,517	10,999	-	-	-	-
個人	8,485	8,391	8,485	8,391	-	-	-	-	93	107
その他	5,325	5,751	-	-	5,325	5,751	-	-	-	-
業種別合計	94,807	96,481	50,203	51,087	44,604	45,394	-	-	450	347
1年以下	16,345	14,722	10,018	9,124	6,327	5,598	-	-	-	-
1年超3年以下	13,779	11,808	5,529	5,367	8,250	6,441	-	-	-	-
3年超5年以下	10,771	11,434	5,898	6,124	4,873	5,310	-	-	-	-
5年超7年以下	6,350	7,758	4,748	4,701	1,602	3,057	-	-	-	-
7年超10年以下	12,264	12,262	6,528	6,638	5,736	5,624	-	-	-	-
10年超	25,538	29,042	17,250	18,926	8,288	10,116	-	-	-	-
期間の定めのないもの	9,755	9,449	229	204	9,526	9,245	-	-	-	-
残存期間別合計	94,807	96,481	50,203	51,087	44,604	45,394	-	-	-	-

(注) 1. オフ・バランス取引は、デリバティブ取引を除く。

2. 「三月以上延滞エクスポージャー」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上延滞している債務者に係るエクスポージャー及び「法人等向け」においてリスク・ウェイトが150%になったエクスポージャーのことです。

3. 上記の「その他」は、裏付となる個々の資産の全部又は一部を把握することが困難な投資信託等および業種区分に分類することが困難なエクスポージャーです。具体的には現金、未決済為替貸などが含まれます。

4. CVAリスクおよび中央清算機関関連エクスポージャーは含まれておりません。

5. 業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

◎一般貸倒引当金、個別貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額

(単位：百万円)

		期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
				目的使用	その他	
一般貸倒引当金	平成26年度	146	179	-	146	179
	平成27年度	179	170	-	179	170
個別貸倒引当金	平成26年度	470	568	64	405	568
	平成27年度	568	488	63	505	488
合計	平成26年度	616	748	64	551	748
	平成27年度	748	659	63	684	659

◎業種別の個別貸倒引当金及び貸出金償却の残高等

(単位：百万円)

	個別貸倒引当金										貸出金償却	
	期首残高		当期増加額		当期減少額				期末残高			
	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度
					目的使用	その他						
製造業	98	40	40	63	55	—	43	40	40	63	—	—
農林、林業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
漁業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
建設業	109	117	117	59	—	53	109	64	117	59	—	—
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
情報通信業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
運輸業、郵便業	5	2	2	—	2	—	3	2	2	—	—	—
卸売業、小売業	96	78	78	39	—	4	96	74	78	39	—	—
金融業、保険業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
不動産業	28	26	26	24	—	—	28	26	26	24	—	—
物品賃貸業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
学術研究、専門・技術サービス業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
宿泊業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
飲食業	1	12	12	3	—	—	1	12	12	3	—	—
生活関連サービス業、娯楽業	18	18	18	18	—	—	18	18	18	18	—	—
教育、学習支援業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
医療、福祉	—	173	173	177	—	—	—	173	173	177	—	—
その他のサービス	25	25	25	29	—	—	25	25	25	29	—	—
国・地方公共団体等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
個人	84	73	73	73	6	5	78	68	73	73	0	0
合計	470	568	568	488	64	63	405	505	568	488	0	0

(注) 当金庫は、国内の限定されたエリアにて事業活動を行っているため、「地域別」の区分は省略しております。

◎リスク・ウェイトの区分ごとのエクスポージャーの額等

(単位：百万円)

告示で定める リスク・ウェイト区分 (%)	エクスポージャーの額			
	平成26年度		平成27年度	
	格付により 区分されたもの	格付以外により 区分されたもの	格付により 区分されたもの	格付以外により 区分されたもの
0%	—	24,365	—	25,487
10%	—	9,560	—	9,412
20%	—	20,739	99	20,227
35%	—	2,061	—	1,965
50%	4,354	276	4,551	230
75%	—	7,862	—	7,744
100%	2,258	23,212	1,866	24,322
150%	—	93	—	44
250%	—	26	—	527
1250%	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
合計	94,807		96,481	

(注) 1. 格付は適格格付機関が付与しているものに限ります。

2. エクスポージャーは信用リスク削減手法適用後のリスクウェイトに区分しています。

3. コア資本に係る調整項目となったエクスポージャー(経過措置による不算入分を除く)、CVAリスクおよび中央清算機関関連エクスポージャーは含まれておりません。

■信用リスク削減手法に関する事項

◎信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー

(単位：百万円)

ポートフォリオ	信用リスク削減手法	適格金融資産担保		保証		クレジット・デリバティブ	
		平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度
信用リスク削減手法が適用された エクスポージャー		547	453	12,472	11,827	—	—

(注) 当金庫は、適格金融資産担保について簡便手法を用いています。

■派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

(単位：百万円)

	平成26年度	平成27年度
与信相当額の算出に用いる方式	カレントエクスポージャー方式	カレントエクスポージャー方式
グロス再構築コストの額	-	-

	担保による信用リスク削減手法の効果を勘案する前の与信相当額		担保による信用リスク削減手法の効果を勘案した後の与信相当額	
	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度
①派生商品取引合計	26	35	5	8
外国為替関連取引	25	35	5	8
金利関連取引	-	-	-	-
金関連取引	-	-	-	-
株式関連取引	1	0	0	0
貴金属(金を除く)関連取引	-	-	-	-
その他コモディティ関連取引	-	-	-	-
クレジット・デリバティブ	-	-	-	-
②長期決済期間取引	-	-	-	-
合計	26	35	5	8

	平成26年度	平成27年度
担保の種類別の額	該当ありません	該当ありません

	プロテクションの購入		プロテクションの提供	
	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度
与信相当額算出の対象となるクレジット・デリバティブの種類別想定元本額	該当ありません	該当ありません	該当ありません	該当ありません

	平成26年度	平成27年度
信用リスク削減手法の効果を勘案するために用いているクレジット・デリバティブの想定元本額	該当ありません	該当ありません

■証券化エクスポージャーに関する事項

当金庫は、証券化取引を行っておりません。

■出資等エクスポージャーに関する事項

◎貸借対照表計上額及び時価

(単位：百万円)

区分	平成26年度		平成27年度	
	貸借対照表計上額	時価	貸借対照表計上額	時価
上場株式等	184	184	259	259
非上場株式等	333	-	513	-
合計	517	184	772	259

◎出資等エクスポージャーの売却及び償却に伴う損益の額

(単位：百万円)

出資等エクスポージャー		売却額			株式等償却
		売却益	売却損		
	平成26年度	386	76	-	-
	平成27年度	10	2	2	-

◎貸借対照表で認識され、かつ、損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位：百万円)

	平成26年度	平成27年度
評価損益	35	27

◎貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額

	平成26年度	平成27年度
評価損益	該当ありません	該当ありません

■金利リスクに関する事項

(単位：百万円)

運用 勘定			調達 勘定		
区 分	金利リスク量		区 分	金利リスク量	
	平成26年度	平成27年度		平成26年度	平成27年度
貸出金	217	182	定期性預金	△ 16	△ 2
有価証券等	296	350	要求払預金	△ 6	△ 1
預け金	93	58	その他	△ 15	△ 44
コールローン等	-	-	調達勘定合計	△ 39	△ 48
その他	-	-			
運用勘定合計	607	591			

	平成26年度	平成27年度
銀行勘定の金利リスク	567	542

役員報酬に関する事項

報酬体系について

1. 対象役員

当金庫における報酬対象となる「対象役員」は、常勤理事及び常勤監事をいいます。対象役員に対する報酬等は、職務執行の対価として支払う「基本報酬」及び在任期間中の職務執行及び特別功労の対価として退任時に支払う「退職慰労金」で構成されております。

(1) 報酬体系の概要

【基本報酬】

非常勤を含む全役員の基本報酬につきましては、総代会において、理事全員及び監事全員それぞれの支払総額の最高限度額を決定しております。

そのうえで、各理事の基本報酬額につきましては役位を勘案し、当金庫の理事会において決定しております。また、各監事の基本報酬額につきましては、監事の協議により決定しております。

【退職慰労金】

退職慰労金につきましては、在任期間中に每期引当金を計上し、退任時に総代会で承認を得た後、支払っております。

なお、当金庫では、全役員に適用される退職慰労金の支払いに関して、主として次の事項を内規で定めております。

- a. 決定方法 b. 支払手段 c. 決定時期と支払時期

(2) 平成27年度における対象役員に対する報酬等の支払総額

(単位：百万円)

区分	支払総額
対象役員に対する報酬等	67

- (注) 1. 対象役員に該当する理事は6名、監事は1名です(期中に退任した者を含む)。
2. 左記の内訳は「基本報酬」58百万円、「退職慰労金」9百万円となっております。
「退職慰労金」は、当年度中に支払った退職慰労金(過年度に繰り入れた引当金を除く)と当年度に繰り入れた役員退職慰労引当金の合計額です。
3. 使用人兼務役員の使用人としての報酬等を含めております。

(3) その他

「信用金庫法施行規則第132条第1項第6号等の規定に基づき、報酬等に関する事項であって、信用金庫等の業務の運営又は財産の状況に重要な影響を与えるものとして金融庁長官が別に定めるものを定める件」(平成24年3月29日付金融庁告示第22号)第3条第1項第3号及び第5号に該当する事項はありませんでした。

2. 対象職員等

当金庫における報酬体系の開示対象となる「対象職員等」は、当金庫の非常勤役員、当金庫の職員であって、対象役員が受ける報酬等と同等額以上の報酬等を受ける者のうち、当金庫の業務及び財産の状況に重要な影響を与える者をいいます。

なお、平成27年度において、対象職員等に該当する者はいませんでした。

- (注) 1. 対象職員等には、期中に退任・退職した者も含めております。
2. 「同等額」は、平成27年度において対象役員に支払った報酬等の平均額としております。
3. 平成27年度において対象役員が受ける報酬等と同等額以上の報酬等を受ける者はいません。

有価証券の評価損益

売買目的有価証券

該当ありません

子会社・子法人等株式及び関連法人等

株式で時価のあるもの

該当ありません

満期保有目的の債券で時価のあるもの

(単位：百万円)

区分	平成26年度					平成27年度				
	貸借対照表計上額	時価	差額	うち		貸借対照表計上額	時価	差額	うち	
				益	損				益	損
国債	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
地方債	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
短期社債	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
社債	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	1,541	1,474	△ 66	44	110	1,741	1,681	△ 59	93	152
合計	1,541	1,474	△ 66	44	110	1,741	1,681	△ 59	93	152

(注) 1. 時価は、期末日における市場価格等に基づいております。

2. 上記の「その他」は、外国証券です。

その他有価証券で時価のあるもの

(単位：百万円)

区分	平成26年度					平成27年度				
	取得原価 (償却原価)	貸借対照表 計上額	評価差額	うち		取得原価 (償却原価)	貸借対照表 計上額	評価差額	うち	
				益	損				益	損
株式	5	10	5	5	-	55	54	0	2	3
債券	17,473	18,195	722	726	3	18,275	19,417	1,142	1,158	16
国債	3,948	4,147	199	199	-	3,445	3,728	283	283	-
地方債	3,945	4,110	164	165	0	5,050	5,434	383	383	-
社債	9,578	9,937	358	361	3	9,779	10,254	475	491	16
その他	4,310	4,469	158	200	42	5,792	5,905	113	222	109
合計	21,789	22,675	886	932	46	24,122	25,377	1,254	1,383	128

(注) 1. 貸借対照表計上額は、期末日における市場価格等に基づいております。

2. 上記の「その他」は、外国証券及び投資信託等です。

時価のない有価証券の主な内容及び貸借対照表計上額

(単位：百万円)

	平成26年度	平成27年度
	貸借対照表計上額	貸借対照表計上額
満期保有目的の債券 非上場外国債券	-	-
子会社・子法人等株式及び関連法人株式	-	-
その他有価証券	非上場株式	60
	投資事業組合出資金	42

金銭の信託

該当ありません

第102条第1項第5号に掲げる取引(金融先物取引、デリバティブ取引等)

該当ありません

退職給付に関する事項

退職給付制度の概要

当金庫は、退職給付制度として確定給付型企业年金制度を採用しております。
また、複数事業主（信用金庫等）により設立された総合設立型厚生年金基金である全国信用金庫厚生年金基金に加入しております。

退職給付債務に関する事項

(単位：千円)

区分	金額	
	平成26年度	平成27年度
退職給付債務 (A)	386,049	426,384
年金資産 (B)	376,069	365,240
前払年金費用 (C)	-	△ 2,599
未認識過去勤務費用 (D)	1,502	1,001
未認識数理計算上の差異 (E)	6,200	62,741
その他 (会計基準変更時差異の未処理額) (F)	-	-
退職給付引当金 (A-B-C-D-E-F)	2,277	-

退職給付費用に関する事項

(単位：千円)

区分	金額	
	平成26年度	平成27年度
勤務費用 (A)	23,941	23,729
利息費用 (B)	4,336	3,860
期待運用収益 (C)	△ 7,927	△ 7,521
過去勤務費用の費用処理額 (D)	500	500
数理計算上の差異の費用処理額 (E)	6,121	1,277
会計基準変更時差異の費用処理額 (F)	-	-
その他 (臨時に支払った割増退職金等) (G)	-	-
退職給付費用 (A+B+C+D+E+F+G)	26,971	21,846

退職給付債務の計算の基礎に関する事項

区分	摘要	
	平成26年度	平成27年度
(1) 割引率	1.0%	1.0%
(2) 期待運用収益率	2.0%	2.0%
(3) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	
(4) 過去勤務債務の額の処理年数	5年	
(5) 数理計算上の差異の処理年数	10年	
(6) 会計基準変更時差異の処理年数	5年	

開示項目

信用金庫法第89条に基づく記載事項

1. 金庫の概況および組織に関する事項

- ①事業の組織…………… 32
- ②理事・監事の氏名及び役職名…………… 32
- ③事務所の名称及び所在地…………… 36
- ④総代会制度…………… 33~35

2. 金庫の主要な事業の内容…………… 23

3. 金庫の主要な事業に関する事項

- (1) 直近の事業年度における事業の概況…………… 7
- (2) 直近の5事業年度における主要な事業の概況

- 経常収益・経常利益・当期純利益…………… 45
- 出資総額及び出資総口数…………… 45
- 純資産額・総資産額…………… 45
- 預金積金残高・貸出金残高・有価証券残高…………… 45
- 単体自己資本比率…………… 45
- 出資に対する配当金…………… 45
- 職員数…………… 45

- (3) 直近の2事業年度における事業の概況

①主要な業務の状況を示す指標

- 業務粗利益及び業務粗利益率…………… 45
- 資金運用収支、役員取引等収支、及びその他業務収支…………… 45
- 資金運用勘定並びに資金調達勘定の平均残高、利息、利回り及び資金利鞘…………… 46
- 受取利息及び支払利息の増減…………… 46
- 総資産経常利益率・総資産当期純利益率…………… 46

②預金に関する指標

- 流動性預金、定期性預金、譲渡性預金その他の預金の平均残高…………… 47
- 固定自由金利定期預金、変動自由金利定期預金及びその他の区分ごとの定期預金の残高…………… 47

③貸出金等に関する指標

- 手形貸付、証書貸付、当座貸越及び割引手形の平均残高…………… 47
- 固定金利及び変動金利の区分ごとの貸出金の残高…………… 47
- 担保の種類別(当金庫預金積金、有価証券、動産、不動産・保証及び信用の区分)の貸出金残高及び債務保証見返額…………… 47
- 使途別(設備資金及び運転資金の区分)の貸出金残高…………… 47
- 業種別貸出金残高及び貸出金の総額に占める割合…………… 48
- 預貸率の期末値及び期中平均値…………… 48

④有価証券に関する指標

- 商品有価証券の種類別の平均残高…………… 48
- デリバティブ取引…………… 60
- 有価証券の残存期間別の残高…………… 49
- 有価証券の種類別の平均残高…………… 48
- 金融先物・有価証券先物・オプション取引の状況…………… 60
- 預証率の期末値及び期中平均値…………… 48

4. 金庫の事業の運営に関する事項

- ①リスク管理の体制…………… 19
- ②法令遵守の体制…………… 21
- ③金融ADR制度への対応…………… 20
- ④内部管理基本方針…………… 20

5. 金庫の直近の2事業年度における財産の状況

- (1) 貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分計算書…………… 39~44
 - 監査法人による外部監査…………… 44
 - 財務諸表の適正性、内部監査の有効性…………… 44
- (2) 貸出金のうち次に掲げるものの額及びその合計額
 - ①破綻先債権に該当する貸出金…………… 49
 - ②延滞債権に該当する貸出金…………… 49
 - ③3か月以上延滞債権に該当する貸出金…………… 49
 - ④貸出条件緩和債権に該当する貸出金…………… 49
- (3) 自己資本の充実の状況
 - 定性的開示事項…………… 51~52
 - 定量的開示事項…………… 53~58
- (4) 有価証券、金銭の信託に関する価格及び評価損益…………… 59
- (5) 貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額…………… 46
- (6) 貸出金償却の額…………… 46

6. 金融再生法開示債権額

- (1) 破産更生債権及びこれらに準ずる債権…………… 50
- (2) 危険債権…………… 50
- (3) 要管理債権…………… 50
- (4) 正常債権…………… 50

7. 役員報酬に関する事項…………… 58

その他の記載事項

- 経営方針…………… 3
- 営業地区一覧…………… 3~36
- 第4次中期計画2015…………… 4
- トピックス…………… 5~6
- 個人情報保護宣言…………… 20
- 顧客保護等管理方針…………… 21
- 反社会的勢力に対する基本方針…………… 22
- 利益相反管理方針の概要…………… 22
- 金融商品に係る勧誘方針…………… 22
- 社会的責任に対する考え方…………… 9
- 地域金融円滑化のための基本方針…………… 10
- 地域経済活性化への取組み…………… 11~18
- 商品・サービスの内容…………… 24~26
- 手数料一覧…………… 29~31
- キャッシュサービスコーナー一覧…………… 36
- あゆみ…………… 37
- 退職給付に関する事項…………… 60

営業店 便り

地域の話

9

出雲支店(出雲市)から

「出雲日御碕灯台」(出雲市大社町日御碕)

日御碕は島根半島の最西端にある、日本海を望む景勝地です。その岬に建つのが「出雲日御碕灯台」であり、その高さは約44mと、石作りの灯台としては日本一の高さを誇っています。「出雲日御碕灯台」は参観灯台でもあるので、来訪者が実際に登って見学することも可能であり、灯台の頂上部の展望台からは海と空が織りなすパノラマの絶景が望めます。また、夕日の眺めは素晴らしく、ロマンチックな風情を味わうことができます。



なお、「出雲日御碕灯台」は明治36年に設置されておりますが、当時の日本の灯台建設技術を示す代表例のひとつであるとともに、その再現をすることが容易で無いということから、平成25年に国の登録有形文化財(建造物)に選ばれております。



10

春日支店(松江市)から

「千手院」(松江市石橋町)

「千手院」は、堀尾吉晴公が松江開府するに当たり、松江城の本丸の鬼門封じの寺として建立され、歴代松江藩主の祈願寺とされてきました。

現在では、松江市の代表的な景勝地として緑地保全区域に指定されているとともに、松江市景観計画における展望地として指定されており、境内からは松江城を望むことができます。

「千手院」にあるしだれ桜は松江市の天然記念物として指定されています。このしだれ桜の樹齢は200年以上であり、樹高約11mの県内有数の大木です。時期になると、広がりのある枝が一齐に開花し、その光景を見るために訪れる方も多く、また、夜桜も幻想的なものであり、人気のひとつとなっています。





松江市御手船場町557-4 TEL. (0852) 23-5505(代)
[ホームページアドレス] <http://www.shimane-shinkin.co.jp/>